科目名:保育カリキュラム論	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、幼児教育及び保育現場における教育課程や、教育・保育の内容に関する全体的な計画の意義を理解した上で、園の指導計画と実践の系統性・往還性を認識しながら、指導計画と評価の在り方について理解を深める。また、学生自身が幼児教育・保育のグランドデザインを編成する中で、カリキュラム・マネジメントについて理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した様々な指導計画の在り方を深く考えることを基軸に、11-12月の教育実習Ⅱに向けた実践的学びの往還を踏まえながら、授業を展開する。【AL】

授業の到達目標
①幼児教育・保育カリキュラムの意義、教育課程及び教育・保育に関する全体的な計画の編成や指導計画の役割や機能について理解する（KDP1）。
②子どもの発達過程を踏まえた教育課程や指導計画の意義、作成方法について理解する（KDP2）。
③さまざまな教育・保育の実際と内容、記録の在り方・評価の意義と方法を踏まえ、カリキュラム・マネジメントやカリキュラム評価の基本的な考え方を理解する（KDP1）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎KDP1：幅広い視野と知識と教養　○KDP2：保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業で、課題（テキスト予習及び次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、理想園課題に関しては、授業での学びを生かしながら作成し、発表・提出に備えてください。

評価方法
最終筆記試験（45%）、私の理想園（指導計画）ファイル及びプレゼンテーション（25%）、授業への取組（各回FB：30%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：各回のFB等における質問に関しては、次回授業時に口頭とスライドで回答する。また、理想園に関しては第15回授業時に総評すると同時に、最終試験に関しては成績開示後に総合結果と特に留意すべき事項等を解説する。

教科書	参考図書
「保育カリキュラム論　－計画と評価－」豊田和子・新井美保子編著　建帛社	平成29年告示版 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
指導計画の作成は保育現場で必要な力量の1つです。どのような幼児教育や保育をデザインしていきたいかなど、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OH等は初回に開示します）。

01	オリエンテーション、幼児教育・保育の基本とカリキュラムーカリキュラムの考え方と展望
02	幼児教育・保育の実践とカリキュラムの関係－社会に開かれた教育課程・全体的な計画の意義
03	保育所保育指針における全体的な計画と指導計画の基礎理解
04	幼稚園教育要領における教育課程及び全体的な計画と指導計画の基礎理解
05	幼保連携型認定こども園教育・保育要領における全体的な計画と指導計画の基礎理解
06	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（１）ー乳児・3歳未満児
07	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（２）ー幼児・3歳以上児
08	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（１）ー預かり保育・長時間保育等
09	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（２）ー保幼小接続カリキュラム
10	保育のカリキュラム・マネジメント　－PDCA サイクル、記録・反省・評価の意義
11	指導計画のデザインと実践展開　－長期指導計画と短期指導計画の系統性と往還性
12	私の理想園作成（１）－教育及び保育に関する理念・方針・目指す子ども像
13	私の理想園作成（２）－教育課程・全体的な計画、教育・保育の内容に関する全体的な計画
14	私の理想園発表（１）－グループプレゼンテーションと質疑応答
15	私の理想園発表（２）－全体プレゼンテーションとカリキュラムの評価
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:児童文化	担当者:浦中 こういち	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童文化を学び、保育に活用できる言葉・技術等に関する知識や技術を学ぶ。

授業の到達目標
１）子どもの発達と絵本、紙芝居、パネルシアター、紙皿シアター、言葉あそび等に関する知識と技術（２）子どもが児童文化に親しむ保育環境（３）子どもの経験や様々な表現活動と児童文化を結びつける遊びの展開についての知識と技術を習得する。（DP）そして、様々な児童文化教材の特性を理解し、実際に教材作りを行い、子どもの遊びやイメージを豊かにし感性を養う環境構成や保育の展開方法を学ぶ（DP）ことを目的とする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
〇多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
グループ別にてプレゼンテーションを行う準備（２h)
シアターについての資料収集や製作(2h)
絵本の特性・理解し学んだことを踏まえた選書(1h)

評価方法
授業への参加態度40％　数回のミニレポート・製作物提出40％　シアター等の発表(グループワーク）10％
　確認テスト10％
　（製作物　授業内で製作するもの　パネルシアター、紙皿シアター等)

フィードバックについて
個人ー提出時に行う。
全体ー授業時に行う。

教科書
保育園・幼稚園で２歳からたのしい忍者あそびがいっぱい　（著：浦中こういち　出版：かもがわ出版)

参考図書
子どもがおしえてくれましたほんとうの本のおもしろさ
保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領
1年中作れる！　0から5歳児の製作・造形あそび
センス・オブ・ワンダー

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
●児童文化を学びながらより実践に近い製作・実技・演習・グループでの発表があります。積極的に学ぶことを求めます。
●パネルシアター／紙皿シアターの教材を実際に製作します。製作材料については丸善等にて販売しております。授業時に詳細をお知らせします。
●連絡方法
Moodleまたはメール

01	子どもの発達と言葉あそびの特性と理解／児童文化についての理解
02	子どもの発達と絵本特製・理解
03	子どもの発達とパネルシアターの特製・理解
04	パネルシアター製作（教材作り　色の塗り方等）
05	パネルシアター製作　（教材作り　仕掛けの使い方、作り方等）
06	パネルシアター製作　（演じ方）
07	パネルシアターを使っての保育の展開を学ぶ（グループでの発表）
08	絵本を使っての保育展開を学ぶ（演習）指定された絵本等の準備を行う。
09	様々なシアターを使って保育展開を学ぶ
10	紙皿シアター製作　（紙皿シアターの特性の理解）
11	紙皿シアター製作　（製作方法の理解と実践）
12	紙皿シアター製作　（教材作り／テキストの作り方の理解と実践）
13	紙皿シアターを使っての保育の展開を学ぶ（演習）
14	乳幼児保育に生かせる言葉遊び（製作・演習）
15	学習の総まとめ（授業と確認テスト）
16	定期試験なし

2022年度シラバス

科目名:教育相談	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育者に子育て支援の役割が期待されるなかで、相談援助の考え方やカウンセリング・マインドをふまえた対応が求められています。本授業では、子どもの発達理解、保護者の教育相談の理解、カウンセリングの基礎的な知識を解説します。保育現場等での事例に基づきグループワーク(3回) を通して保育・教育相談を実践的に学ぶことをめざします。カウンセリングの基礎的な態度をロールプレイ (2回) を用いて身に着けます。

授業の到達目標
1. 教育相談の知識と態度を理解し、自己理解・他者理解を深めることを通して、教育相談を実践するために必要な人間関係形成力やコミュニケーション力をつける (DP) 。2. 幼児教育の現場での幼児の理解を深め、幼児そしてその保護者を支援する具体的な方法としてのカウンセリングの基礎的な知識・技術を習得する (DP)。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養
〇各国の保育の比較を通して身につく、自らのより望ましい保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業に関するミニレポートを毎回課します。授業後にそのレポートをまとめ提出してください。
さまざまな事例をとりあげるため実習等での経験を重ねて振り返ってください。
対人関係トレーニングやカウンセリング技法を学んだ際は、日常生活での対人関係の中でそのスキルや技法を試みるようにしましょう。
全8回で32時間の授業時間外学習を要します。

評価方法
授業中のミニレポート (40%)　課題についての提出物 (10%)　　教育相談及びカウンセリング理論と方法についてのレポート (50%)
レポートのフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書 指定しない	参考図書 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育現場において保護者や保育者同士のコミュニケーションの基礎となる実践的な科目です。自分自身の態度を振り返ることにもなると思いますが、その都度苦しくなった場合は相談に乗りますので遠慮なく声をかけてください。
連絡方法・オフィスアワーは授業で開示します。

01	保育現場における相談ニーズとカウンセリングマインド
02	子どもの発達理解と相談・支援
03	保護者への対応ー子育て支援の観点から
04	発達障害や気になる子どもとその保護者への対応
05	子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ
06	コンサルテーションやカンファレンスの理解
07	保育場面でのカウンセリング技法の活用
08	基礎的対人関係のトレーニング
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:国際教養総論	担当者:髙橋 一郎・田端 智美・石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
留学で得た幅広い知識と視野、そして言語力アップにともなう対外的発言力の向上を基本として、各学生１回の授業内発表を行う。学生は社会時事全般及び国際情勢から日常の事象まで自由にトピックを選ぶことができ、それを元に討論、意見交換、提議などが行われ、その内容や進め方は発表する学生がコントロール(司会)することにする。

授業の到達目標
学生はこの授業を通して、社会に対する自らの興味を確認するとともにその興味を自らの言葉でクラス内で発表することを通して自らの発信力を確立できるものとするのを到達目標とします。学生各自が自らの選択でトピックを決めて発表し、授業の展開をコントロールすることを通して、留学で得た対外的な発言力を確認することをもって留学の事後指導的位置づけの科目とするものである。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○課題を見出し解決する力と論理的思考力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日々、ニュース(ネット、新聞）に目を通し社会時事にアンテナを張り巡らす。毎週の授業始めに時事情報交換の場で発言できるようにニュースに目を向ける

評価方法
ディスカッションへの参加姿勢70%　毎回のレポート30%
課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的な発言（意見、提案）が求められるこの授業において、学生の活発な議論を期待しています。

01	全体授業　授業概要　授業の進め方　以下は発表トピック例
02	家族と家庭
03	笑いとユーモア
04	法律と道徳
05	公害と産業
06	学歴　競争社会　平等
07	危機管理
08	親友　友情
09	戦争と平和
10	契約
11	愛情　恋愛
12	勤労　職業　奉仕　ボランティア
13	公共性と倫理
14	ネット社会
15	まとめ
16	

2022年度シラバス

科目名:教育実習Ⅱ	担当者:田端 智美・森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:教育実習1を履修済みであること		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現在までの学びや体験を活かして、応用的に課題を持ちながら幼児と関わる中で、幼稚園教育の実際を学ぶ。また、教師としての職業倫理などの理解を深め知識・技術・態度の実践的な履修を目指す。同様に、修得した理論を実践することを通して、応用的に教師としての専門性や資質を理解して保育観・教育観を培う。
主に参加実習、指導実習を行う。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能について実際に即して理解する。　②幼児の実際の姿や活動を通して理解を深める　③観察、参加、指導実習を通して、幼稚園の教育・保育の実際について体験的に学ぶ④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について実際に即して学ぶことを通して、幼稚園と家庭・地域等との関係について学ぶ。⑥特別支援教育について理解を深める⑦幼小の連携について理解を深める　⑧幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。（DP）
（
【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習の実施に先立って、教育実習1で学んだことをよく確認すること
・事前訪問時に実習園から頂いた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること

評価方法
実習園からの評価６０％・実習日誌２０％・事後レポート１０％・その他（実習の意欲・実習状況・巡回指導報告書など）１０％を総合して評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
教育実習Ｉハンドブック	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本実習を行うにあたり「教育実習指導Ⅱ」を履修すること　・実習中の遅刻早退欠席は事前にその旨を申し出、許可を取ること　合計実習時間数が80時間を満たない場合は、延長実習を行うこと
連絡先　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	Ⅰ.幼稚園における80時間(計10日間)の実習を通して観察・参加・指導実習(部分・全体)を体験する。 2.観察・参加を通しては、幼稚園での子どもの姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等、幼稚園教育のあり方について、体験を通した理解を課題とする。 3.参加・指導実習(部分・全体)を通しては、子どもの発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務と実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、子どもの援助・指導案の立案・教育実践の展開・実践の評価など、体験を通した応用的な実習となるようにする
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:教育実習指導Ⅱ	担当者:田端 智美・森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:教育実習Ⅰを履修済みであること		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育実習Ⅱのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、大学生活における教育実習（幼稚園）の総まとめを行う。

授業の到達目標
①幼稚園教育実習の意義や目標を理解する。　②実習への心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む。　③観察実習・参加実習・責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組み。　④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の就職に生かしていく。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内で詳細を提示
２年次の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学習をすること。

評価方法
事前課題（ワークシート・指導案等）５０％、事後課題（事後課題発表等）５０％、授業への意欲１０％を総合的に評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
教育実習Ⅱハンドブック	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
公欠以外の理由で事後指導を欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合はその前後に必ず、教務課と授業担当教員に直接連絡をしてください。課題があります。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	教育実習Ⅱの課題と事前事後指導の計画の理解
02	幼稚園における教育・保育の理解（応用）
03	３・４・５歳児の発達過程における理解（応用）
04	教育実習における指導案の書き方（応用）
05	指導案の作成と発表
06	事前訪問のための学内指導・実習直前指導（教師としての心構え）
07	教育実習事後指導１（学びの振り返り・総まとめ）
08	教育実習事後指導２（自己課題の明確化・総まとめ）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:教職実践演習（幼）	担当者:田端 智美・森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教職に関する学修の集大成としての実践的授業である。履修カルテで教職課程の履修を振り返り、講師の講話を聞き、指導力や実践的な課題を学ぶ。それらを通じて自己課題を明らかにしていく。2名の教員で連携・協力して行う。またおおよその講義を2クラスに分けて行う。

授業の到達目標
本学科が目標とする教職課程教員像の到達すべき目標から自分を常に振り返る。
①教員の使命や責任を自覚し、自主的・積極的に自己課題を立て、学び続ける姿勢を養う。（DP）
②他の教員との協力や保護者・地域住民との連携性を理解し、対人関係を養う。
③子どもの発達状況に応じた適切な指導を行うことができる学級経営の基礎を習得する。
④幼稚園指導要領に対応した教育・保育の的確な指導力・実践的なマネージメント力を身につける。
教員としての責任や姿勢、必要な資質能力が形成されたかについて最終的に判断する授業である。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様な文化を受け入れる能力（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業外に行うべき課題（授業時に発表し討論する課題）を複数課すので、それを丁寧に考察して行うこと。

評価方法
提出課題（発表シート、講義ノート等）が70点、参加態度・発表態度が30点で、合計100点満点で評価する。欠席回については、欠席課題を課す。その詳細については初回に指示する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
特に設定しない。毎回、ムードルを経由して資料と課題を配布する。	授業の中で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ムードルを経由して課題や資料等を配布し、ムードルを経由して提出する。毎回、ＰＣを持参すること。教員としての責任や姿勢、必要な資質能力が形成されたかについて最終的に確認する授業である。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	今日の教員養成の課題と教職実践演習の目的について
02	「教職履修カルテ　振り返りシート」発表　今までの履修について話し合い
03	「教職履修カルテ　振り返りシート」発表　今後の履修について話し合い
04	外部講師講義①幼稚園教諭について(表現等・グループに分かれ事例研究を行う・講義ノート作成・提出)
05	外部講師講義②幼稚園教諭について(多文化共生等・グループに分かれ事例研究を行う・講義ノート作成・提出)
06	外部講師講義③幼稚園教諭について(幼小連携等・グループに分かれ事例研究を行う・講義ノート作成・提出)
07	幼稚園教諭の使命・責任について
08	幼稚園教諭の社会性について
09	幼稚園教諭としての子ども理解について
10	教育・保育内容の指導力の補足①(ロールプレーイング)
11	教育・保育内容の指導力の補足②(まとめ)
12	教育・保育内容の事例研究
13	指導案の作成と模擬保育
14	自分が目指したい教員像
15	教職履修カルテの最終発表・教育実践演習の振り返り
16	

科目名:保育実践演習	担当者:木村 達志・石山 英明・ダーリンプル規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育に関わる専門的学修を振り返り、保育士として必要な資質・知識・技能を修得したことを確認する。それにより、自らのより望ましい保育のあり方について考察する力が身についたことを確認する(DP)。そして、子どもや保護者に対する援助の技術・方法等について課題を掲げてグループ討議やプレゼンテーションによる主体的な学修を行う(DP)。保育の課題を見出し、問題解決能力を身につけ論理的に思考し、保育実践への理解を深めていく(DP)。

授業の到達目標
① 保育士として必要な専門的な知識及び技術、幅広く深い教養及 び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか について自らの学びを振り返り把握する。②保育実習等を通した自らの体験や収集した情報に基づき、保育 に関する現代的課題を分析し、保育士や保育現場、地域社会に求め られることは何かを多様な視点から考察する力を習得する。 ③自己の課題を明確にし、保育実践に必要となる基礎的資質・能力を定着させる。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
① 保育実習に必要な知識や技術は自らの課題や目標に照らし合 わせ、保育関係科目を復習し、自主的に学修する。 ②保育に関する現状や課題に関心を持ち、その要因や背景、課題の 解決方法について考察する。 ② 社会人としての対応能力や協調性を高めるため、より良い人間 関係づくりに努める。

評価方法
授業態度40％・提出物60％
課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書 無し	参考図書 保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
最終学年なので、毎回の授業で、学んだことを確認し、保育者としての資質を身に付けましょう。連絡手段は初回授業時に案内いたします。

01	オリエンテーション
02	外部講師の講話
03	課題教材研究（わらべうた・触れ合い遊び・からだ遊び等発表）
04	外部講師の講話
05	打楽器の奏法を理解し、アンサンブルを行う
06	保育実習の反省（保育現場に求められる、知識技術教養判断力倫理観など）
07	Ⅰ度・Ⅳ度・Ⅴ度（主要3和音）による伴奏があなたを救う、かも？幼児歌曲の弾き歌いのまとめ
08	外部講師の講話（卒業生）
09	課題教材研究（パネルシアター・ペープサート等発表）
10	マーチとワルツ、あなたはどっちがお好き？ピアノ演奏のまとめ
11	課題教材研究　（手つくりおもちゃ制作）
12	3歳未満児における運動遊びの保育実践例
13	運動遊びの指導に必要な保育者の資質を考える
14	保育所における感染対策の実践例
15	合同：保育現場に求められる現代的課題の考察・履修カルテ作成・振り返りとまとめ
16	

科目名:保育実習Ⅱ	担当者:石山 英明・Dalrymple規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰで学んだことを踏まえて保育所での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援・保育士としての職業倫理等に関するより発展的な知識・技術・態度の体系的な修得を目指す。保育実習Ⅰを踏まえ、保育実習Ⅱの目標を明確に持ち、保育の現状や子どもの見方についての理解を深め、指導案の作成、教材制作、意見交流等を行う。実習終了後は、自己の課題を明確化する。

授業の到達目標
1）保育所の役割や機能について具体的な実践に結びつけて理解を深める。 2）子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。3) 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。4) 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み・理解を深める。 5）保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。6) 実習（学内実習）における自己の課題を明確化する。 7）自信を持って、卒業後就職できるように実践力を身に付ける。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：実習 1 の経験を踏まえて、自己課題を明確にしておく。
事後学修：実際の場で体験し、実践力を身につけるようにする。
予習復習課題の事前事後課題提出を求めることもある。

評価方法
課題提出、それに伴う事前事後課題の提出により評価を行う。具体的には実習Ⅱの６つの目標に沿った内容で、それぞれの課題レポートでの評価と発表・実技内容を合わせて評価する。 日誌・指導案・レポート・実習態度・準備・現場の評価等 合計100％

教科書	参考図書
保育所保育指針解説書	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育現場での実習であるので、緊張感と共に、社会人及び保育者としてのモラルと自覚をもって、健康で、実習目標を達成するために全力を尽くすこと

01	学生自らの課題意識に基づき、実習の目標 6 点【１．保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める ２．子どもの観察や関りの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。３．既存の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する４．保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価などについて、実際に取り組み、理解を深める。５．保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。６．実習における自己の課題を明確にする。】に合わせて次のように実施する。１．観察・参加実習を通して課題意識を持って積極的に学ぶ。２．自らの課題に合わせて、参加・責任実習を行い、反省を行い、学びを確かなものにする。３．疑問や不安は積極的に尋ねたりして解消し、将来の就職に合わせて実践力を身につける。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅲ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:原則、当該年度の保育実習指導Ⅲを履修すること（未履修者は本実習に参加することはできない） 保育実習Ⅰの単位を修得していること		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰで学んだことを踏まえて、保育所以外の児童福祉施設での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援・保育士としての職業倫理等に関する発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。より多くの有意義な学びができるよう、実習前には保育の現状や子どもの見方についての理解を深め、援助案の作成・発表等を行うことで準備を進め、実習後はグループ討議等を通して実習を振り返り、自己の課題を明確化する。（A L）

授業の到達目標
1）既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する（D P）。
2）家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する（D P）。
3）保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する（D P）。
4）実習おける自己の課題を理解する（D P）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康管理や養護に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を日頃から自覚して行うこと。実習実施に先立ち、保育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認し、事前・事後訪問時に実習施設からいただいた資料やご指導をよく確認して準備すること。

評価方法
実習施設からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況等）10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）	平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
大学生活最後の実習であることの重要な意味を各自よく胸に刻み、真摯に実習に取り組みましょう。
連絡手段等については、授業時に指示します。

01	自らの課題意識に基づき、保育所以外の児童福祉施設にて以下の内容について概ね10日間の実習を実施する予定である。 1）観察・参加実習 ①保育の概要の理解、②当該施設の人的・物的・地域的環境についての理解、③利用者の行動や姿の観察・理解、④保育士の職務内容と役割についての概要の理解、⑤家庭や地域社会との関係についての概要の理解 2）参加・指導実習 ①業務全般に参加しながら、利用者の生活や発達、ニーズについての体験的な学習 ②業務全般に参加しながら、保育の方法や技術の体験的な学習 ③援助計画についての立案・実践を通しての体験的な学習 ④職員間の役割分担とチームワークについての体験的な学習 ⑤利用者の最善の利益を具体化する方法についての体験的な学習 ⑥保育士としての倫理・使命・責任等についての体験的な学習
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習指導Ⅱ	担当者:石山 英明・ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 保育実習Ⅱを充実したものにするために事前事後指導を行う。事前指導では指導案の作成、実習の心構え等について学び、事後指導では省察を通して自己の課題を明確にし、各自今後に活かしていくという流れの中で保育実践力と見識を深める。
授業の到達目標 １）保育実習Ⅰや既習科目で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅱ（学内実習）の実践に活かすことができる。２）保育所実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題・留意事項等をよく理解している。３）実習及び学内実習での学びや体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学修課題を明確にすることができる。 【到達目標と深く関連する学科DP】 ○保育のあり方について考察する力 ◎課題を見出し解決する力と論理的思考力 ○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修：日頃から自己を振り返り、実習及び学内実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。事後指導：各回の学びを振り返りながら十分に復習し、必要な知識・技術・態度について省察・整理をし、自身の考えを深めておくこと。
評価方法 事前課題：課題レポート・指導案の提出、発表レポート等（65%） 事後課題：実習の目標１～５についての振り返りシート（35%）

教科書	参考図書
保育所保育指針解説書	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 無断欠席は厳禁であり、実習Ⅱそのものの履修資格を失う。やむを得ず欠席や遅刻をする場合は、教務課実習担当者に必ず連絡すること。欠席者には課題を出すため、センターに欠席届を提出し、センターで欠席課題を受け取り、担当教員に課題を提出する。

01	ガイダンス 保育実習Ⅱの位置づけ、目標、課題、学内実習について 実習についての諸注意
02	子どもの発達について（復習・確認）
03	指導案の書き方について（記述の再確認）
04	教材作成 廃材等を利用した教材作成
05	教材研究 制作した教材を使用した指導案作成
06	実践 指導案の実践（グループワーク）
07	事後指導 実習の目標に対する振り返り
08	事後指導 実習の目標に対する振り返りの交流
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習指導Ⅲ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:当該年度の保育実習Ⅲの履修を希望していること。保育実習Ⅰ（保育所・施設）を履修済であること。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅲを充実したものにするための事前事後指導を行う。事前指導では、実習の在り方や援助案の作成、実習への心構え等について学び、事後指導では省察を通して自己の課題を明確にし、各自今後に活かしていくという流れの中で、保育実践力を培うことを目指す。演習形式で行う（A L）。

授業の到達目標
1）保育実習Ⅰや既習科目で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅲでの実践に活かすことができる（D P）。
2）実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題・留意事項等をよく理解している（D P）。
3）自己の実習体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学習課題を明確にすることができる（D P）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から自己を振り返り、実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。実習に必要な知識・技術・態度は自主的に修得し、磨いていくこと。

評価方法
事前課題（授業課題シート、援助案、発表、提出物等）50%、事後課題（実習日誌、実習レポート、実習振り返りシート、体験発表等）40%、授業への参加態度10%で総合的に評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）	教科書■保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）□参考図書□ 平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
無断欠席は厳禁であり、実習そのものの履修資格を失う。止むを得ず欠席や遅刻をする場合は、教育・保育職支援センターに必ず自分で連絡をすること。欠席者には課題を出すため、必ず担当教員を訪ね指導を受けること。保育実習Ⅲを再履修する学生においても、保育実習指導Ⅲを再受講することが原則であり、実習の履修資格となる。
教員への連絡手段は授業時に提示する。

01	オリエンテーション（保育実習Ⅲの位置づけ・目標・課題）、事前訪問についての説明
02	福祉施設利用者との交流（予定）
03	施設長先生から施設での保育現場のお話を聞き、現状を学ぶ（予定）
04	児童福祉施設での援助案演習①　援助案の書き方説明、案の作成
05	児童福祉施設での援助案演習②　援助案の発表・交流（グループ別）
06	児童福祉施設での援助案演習③　援助案の発表・交流（グループ別）
07	実習直前指導（諸注意、各自の課題整理・確認）
08	実習事後指導（各自の振り返り及び実習体験を通して学んだことの発表・交流）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅰ（施設）	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童福祉施設において約１０日間の実習を行う。保育士が働くことのできる施設についての理解を深めるとともに、施設における保育士の養護を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する(DP)。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める(DP)。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ(DP)。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する(DP)。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習へ行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業で出席であること」、「すべての課題で合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等に加えて、普段からの挨拶は実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。

教科書 随時紹介する。	参考図書 保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から健康管理に気をつけること。実習中は遅刻、早退、欠席をせず、充実した実習ができるように心がけること。急病など致し方ない事情で欠席する場合は、ただちに実習先と大学事務に電話すること。保育実習Ⅰ（施設）を再履修する学生においても、保育実習指導Ⅰを再受講することが原則で、実習の履修資格にになる。

01	＜居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容＞ １．施設の役割と機能 （１）施設の生活と一日の流れ （２）施設の役割と機能 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助や関わり ３．施設における子どもの生活と環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子どもの心身の状態に応じた生活と対応 （３）子どもの活動と環境 （４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育実習指導Ⅰ（施設）	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童福祉施設において約１０日間の実習を行ための準備を行う。保育士が働くことのできる施設についての理解を深めるとともに、施設における保育士の養護を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する(DP)。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める(DP)。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ(DP)。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する(DP)。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習に行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業に出席であること」、「すべての課題に合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等をしない事に加え、普段からの挨拶は実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
課題状況60%、出席態度30%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。

教科書	参考図書
特になし	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回出席をとり、無断欠席があった場合や遅刻が多い場合は原則として実習は受けられない。
病欠、忌引きなどの止むを得ない事情の場合は、必ず教務課に連絡すること。後日担当教員から課題の指示をするので必ず教職・保育職支援センターに聞きに行くこと。（欠席課題の他に、次回までの共通課題がある場合がある） 。毎週開講ではなく集中的に授業を行うことがあるので、欠席が重ならないよう健康に留意すること。

01	オリエンテーション
02	調べ学修（施設別）(AL)
03	グループ別発表会(AL)
04	実習先発表・書類の書き方
05	事前訪問について・日誌の書き方
06	外部講師による講話（予定）
07	直前指導・自己課題の設定
08	事後指導
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:発達心理学	担当者:小川 絢子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの心理を多面的に深く理解するための講義です。本講義では、乳幼児の発達に関する諸研究の成果をふまえつつ、保育者としての子ども理解をより深めていきます。加えて、実践記録の読み合わせ、実習のエピソード発表や子どもの発達を踏まえた指導案の作成・発表などを行い、子どもの発達についての理解をいかに保育実践と結びつけていくかを検討していきます。

授業の到達目標
本授業の目標は以下の3点です。乳幼児期の心身の発達を専門的に理解し、人に説明できる力をつける。乳幼児期の発達と保育実践を結びつけて理解する。さらに、これらの理解を自分の保育にどう活かすかを考察する力を養っていく。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
〇保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、授業で紹介する実践記録を読んでおきましょう。週1回、15分程度が望ましいです。また、発表の資料作成の時間が1時間程度必要です。事後学修としては、授業で得た子どもの発達に対する理解やそれをふまえた保育実践について、人に話してみる機会を持つとよいと思います。

評価方法
期末レポート（55%)、授業参加態度（15%)、プレゼンテーション（30%)から、総合的に評価します。授業参加態度とプレゼンテーションのフィードバックはワークシートや感想用紙を返却する形で行います。期末レポートは返却時にコメントを入れてフィードバックを行います。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、期末レポートの提出資格はありません。

教科書	参考図書 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
詳細は初回の授業にてお知らせします。

01	イントロダクション
02	乳児期①― 乳児期の認知発達と対人関係の変化
03	乳児期②― 0歳児の発達と生活・遊び
04	乳児期③― 0歳児の発達を踏まえた実践を考える
05	幼児期前半①―乳児期から幼児期へ― 1歳半の節における認知発達と対人関係の変化
06	幼児期前半②―1歳児の発達と生活・遊び
07	幼児期前半③―1歳児の発達を踏まえた実践を考える
08	幼児期前半④― 2歳児の発達と生活・遊び
09	幼児期前半③― 2歳児の発達を踏まえた実践を考える
10	幼児期後半①―幼児期後半へ― 3歳から5歳の認知発達と対人関係の変化
11	幼児期後半②― 3歳児の発達と生活・遊び
12	幼児期後半③― 4歳児の発達と生活・遊び
13	幼児期後半④― 5歳児の発達と生活・遊び
14	幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える1
15	幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える2
16	幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える3

2022年度シラバス

科目名:幼児と言葉	担当者:杉山 実加	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。授業内では実際に言葉遊びをグループで体験したり、発表しあうことで、子どもが感じるであろう楽しさを理解し、それを保育や子ども理解へ繋げられるようにする【AL】

授業の到達目標
1、言葉の機能や意義を理解する。（DP）
2、言葉に対する感覚を豊かにするための実践について理論・技術を身につける。
3、児童文化財について理解を深め、保育における活用のあり方について考え述べることができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
〇保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日常生活に溢れる言葉に関心を持つようにしてください。また、授業内で学んだことは復習し、わからないことは整理しておきましょう。また、学んだ内容について授業後も情報を集めるなどして、自分の考え・知識を深めるようにしてください。

評価方法
授業態度10%　授業内課題50%　確認テスト30%　グループワーク参加状況10%
フィードバックは授業内での課題返却を通して行う。

教科書	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学生からの連絡は対面以外ではGmail、teamsにて受け付ける。

01	授業オリエンテーション、言葉とは何か考える
02	子どもの言葉の発達過程
03	言葉の美しさ・楽しさを感じよう―絵本と言葉―
04	子どもと言葉遊び（1）言葉を集める、言葉遊び
05	子どもと言葉遊び（2）オリジナルの物語を作る
06	子どもと書き言葉
07	日本語の面白さ―オノマトペの魅力―
08	言葉に対する感覚を豊かにする経験について考える・確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法（言葉）	担当者:太田 昌孝	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【言葉】は人間固有のコミュニケーションツールであるだけでなく、人間がその特性を生かして生きてゆくための中枢を形成する。本講義では幼児期における言葉の獲得と応用の関係を学ぶと共に、様々な文学作品をテキストに【言葉】が持つ本質的な内実と可能性についてより深く学び、幼児と言葉の緊密な関係性の中心にあるものを習得する。

授業の到達目標
①【言葉】の持つ基本的性質について理解する。②言葉の力を育てる保育者の基本的姿勢と理念について理解する。（DP)
③　①②で習得した内容を基に保育現場での実践力について深く学ぶ。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①日常生活の中で、常に幼児の発する言葉を傾聴する。②幼児向けの文学作品の読み聞かせ等を通じて、自らの言語感覚を錬磨する。

評価方法
課題20%。期末レポート80%の割合で評価する。課題についてはA.B.Cの評価とコメントを付して返却する。期末レポートについても評価とコメントを付して返却する。

教科書	参考図書
『保育内容・言葉』（同文書院）	『気になる子のわらべうた』（クレヨンハウス）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①系統的な講義なので欠席をしないように心がける。②講義におけるマナーを遵守する。
②連絡手段；m-ohta@nagoyacollege.ac.jp

01	オリエンテーション・【言葉】とは何か。
02	幼稚園教育要領・保育所保育方針【言葉】の領域について。
03	「子どもの言葉と育ち」①『保育内容・言葉』P1-P4をテキストに使用。
04	「子どもの言葉と育ち」②『保育内容・言葉』P5－P9をテキストに使用。
05	【ビゴツキーの「言語理論」について】・資料を配布し具体的に解説する。
06	「子どもの言葉と保育者」①『保育内容・言葉』P43-P48をテキストに使用。
07	「子どもの言葉と保育者」②『保育内容・言葉』P49-P53をテキストに使用。
08	「子どもの言葉と保育者」③『保育内容・言葉』P54-P59をテキストに使用。
09	「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」①『保育内容・言葉』P43-48をテキストに使用。
10	「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」②『保育内容・言葉』P49-P53をテキストに使用。
11	「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」③『保育内容・言葉』P54-P59をテキストに使用。
12	「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」①『泣いた赤鬼』をテキストに使用。
13	「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」②『桃太郎』をテキストに使用。
14	「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」③『双子の星』をテキストに使用。
15	講義のまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:幼児体育A	担当者:平野 朋枝	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実技
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
授業では、未就園児とその保護者を対象として、運動遊びの環境を提供し、運動を楽しむことを目的とした援助を行う。この取り組みは本学近隣在住の保護者への子育て支援事業を行う桜花学園子育て交流会や名古屋短期大学付属幼稚園と連携して、地域の子育てに関わる課題解決を目指している。　実践を通して、現代の子どもの体力・運動能力の状況や、幼児期における望ましい体力・運動能力の獲得についての知識・技術を身につける。
　この科目を履修する場合は、「幼児体育特演II」も履修することが望ましい。

授業の到達目標
１．乳幼児の運動発達を理解する。
２．乳幼児が様々な運動を経験するための環境を構成できるようになる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　運動遊びの参考書などを用いて、体を動かす遊びのレパートリーを増やしておくこと。より良い実践を目指して、授業以外でも環境の構成に必要な物品の準備や学生同士の意見交換を行うようにすること。また、日ごろから子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
1. 授業への取り組み状況（30%）　2. リアクションペーパー、課題等（30%）　3.　B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめて学期末に提出（40%）

リアクションペーパー、課題等については、その後の授業で特徴的な意見や優れたレポートを紹介する。

教科書	参考図書
適宜資料を配付する	「幼児体育」（建帛社）　「保育と幼児期の運動遊び」（萌文書林）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動するのにふさわしい服装・身だしなみでなければ受講を認めない。・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。
連絡手段；メール（hirano@nagoyacollege.ac.jp）

01	現代の子どもの体力・運動能力，外遊びの重要性
02	乳幼児期の運動発達
03	運遊び環境の構成、安全面への配慮
04	低年齢児の運動面の発達と健康課題
05	就園児とその保護者を対象とした運動遊びの環境構成①
06	就園児とその保護者を対象とした運動遊びの環境構成②
07	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの援助の在り方
08	まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児体育B	担当者:平野 朋枝	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実技
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
授業では、未就園児とその保護者を対象として、運動遊びの環境を提供し、運動を楽しむことを目的とした援助を行う。この取り組みは本学近隣在住の保護者への子育て支援事業を行う桜花学園子育て交流会や名古屋短期大学付属幼稚園と連携して、地域の子育てに関わる課題解決を目指している。　実践を通して、現代の子どもの体力・運動能力の状況や、幼児期における望ましい体力・運動能力の獲得についての知識・技術を身につける。
　この科目の受講に当たっては、「幼児体育特演I」が必須である。

授業の到達目標
１．子どもが達成感を味わえるような援助ができるようになる。
２．運動遊びの計画、実践、評価、再計画、改善ができるようになる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　運動遊びの参考書などを用いて、体を動かす遊びのレパートリーを増やしておくこと。より良い実践を目指して、授業以外でも環境の構成に必要な物品の準備や学生同士の意見交換を行うようにすること。また、日ごろから子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
1. 授業への取り組み状況（30%）　2. リアクションペーパー、課題等（30%）　3.　B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめて学期末に提出（40%）

リアクションペーパー、課題等については、その後の授業で特徴的な意見や優れたレポートを紹介する。

教科書	参考図書
適宜資料を配付する	「幼児体育」（建帛社）　「保育と幼児期の運動遊び」（萌文書林）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動するのにふさわしい服装・身だしなみでなければ受講を認めない。・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。
連絡手段；メール（hirano@nagoyacollege.ac.jp）

01	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの援助の在り方
02	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの実践（第1回）
03	第1回実践の振り返りと次回の準備
04	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの実践（第2回）
05	第2回実践の振り返りと次回の準備
06	未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの実践（第3回）
07	第3回実践の振り返り
08	まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:子ども理解の理論と方法	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、保育・教育において基盤となる子ども理解について、その理論を学ぶ。特に、子どもは様々な関係性の中で生きているという視点について学習する。そのうえで、様々な事例（エピソード記録）・映像資料等を通して、幼児理解の方法をグループディスカッション及びプレゼンテーションを通して学ぶ。コミュニケーションシートを使っての質疑応答を行う。【AL】

授業の到達目標
DP１に関連し、下記を到達目標とする。
１．幼児理解の様々な理論の視点について理解する。
２．観察及び記録そして幼児理解の意義を理解する。
３．観察や記録から、周りの幼児との関係やその他の背景を鑑み、幼児について理解することができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
最初の授業時に、各授業における資料や参考図書について説明をする。該当の授業の前には、それらの資料・図書を読んでおくこと（２～３時間）。また、事後学修としては、課題レポートを完成させておくこと（１時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、授業態度(１０%)、課題（３０%）、発表(１０%)、定期試験(５０%)で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて、全体へも伝える。

教科書 適宜資料を配布する	参考図書 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、「君が僕の息子について教えてくれたこと」から「理解」について学ぶ
02	乳幼児精神保健からの乳幼児理解：間主観性、愛着、関係性、やりとりの重要性
03	脳科学から見た乳幼児理解
04	あそびの重要性、子どもの行為の意味の探究
05	海外の保育における乳幼児理解
06	観察力・記録力・考察力・内省力と関わり
07	ロバートソンフィルム「ジョン」を見て、読み解く
08	ロバートソンフィルム「ルーシー」を見て、読み解く
09	エピソード記録：意義、事例を読み解く(グループディスカッション)
10	各グループによるプレゼンテーション
11	エピソード記録を書く
12	エピソード記録についてのカンファレンス(グループ活動)
13	カンファレンスについての振り返りの発表
14	ドキュメンテーション：エピソード記録からドキュメンテーションを書く
15	ドキュメンテーションの発表
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:子ども家庭支援論	担当者:太田 早津美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育士・保育園長
授業担当者の現場経験を基にした具体的な事例検討で、子育て家庭の支援の在り方を学び理解を深め実践力を高めていく（AL）。子育て家庭を取り巻く様々な問題や課題を抱えている子育て家庭の現状把握と支援策を学びながら、保育所や地域の子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえた支援ができるよう理解を深めていく。

授業の到達目標
①子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子ども家庭支援の意義と保育者の役割について理解する（DP）。子育て家庭の支援体制について理解する（DP）。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】◎幅広い視野と知識と教養　○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
子どもを取り巻く状況に関心を持ち、子育て家庭の実態と課題を把握し、子育て支援に関連する専門職として必要な知識について自らの学びを確認しながら、授業内容を幅広い知識をもって学ぶようにする。予習復習をして、教科書に記された大切な用語等を理解し覚えておく事。居住地の子育て家庭の状況や支援対策を知っておくこと。子育て支援センター等に出向き、親子のかかわり方を観察したり、保護者の子育て観や子育ての悩みを聞き、子育て支援についての学びを深めること。

評価方法
筆記試験（８０％）、授業への参加態度・レポート・提出物（２０％）。フィードバックは毎回の授業ノートに学び、感想や質問を記載。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
学ぶ・わかる・みえる　保育と子ども家庭支援論　第2版（編）石動瑞代　（みらい）	＜29年告示＞保育所保育指針、　幼稚園教育要領、　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
新聞や報道による子育て家庭に関連した記事に関心を持ち、子育て家庭の現状をより理解するよう努めましょう。自身のワークライフバランスを考えた時にどのような支援が必要か考えてみましょう。　研究室740２　ohta@ohkagakuen-u.ac.jp

01	授業ガイダンス　・　子ども家庭支援とは
02	子ども家庭支援の意義と役割
03	子育て家庭を取り巻く地域社会の変容と子ども家庭支援の必要性
04	保育士等が行う子ども家庭支援
05	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援
06	保育所・幼稚園・幼保連携型認定子ども園における子育て家庭への支援
07	子育て家庭の支援体制
08	子育て支援事業
09	多様な子育て家庭の支援と関係機関との連携
10	地域の子育て家庭への支援状況（調べ学習のプレゼンテーション）
11	要保護児童及びその家族に対する支援
12	保育現場での子ども家庭支援の現状と課題
13	子ども家庭支援を行う保育士の基本姿勢
14	子ども家庭支援の課題とまとめ　①　事例研究と支援方法の考え方
15	子ども家庭支援の課題とまとめ　②　今後の課題と保育者としての支援の在り方
16	定期試験

科目名:社会的養護Ⅰ	担当者:川上 知幸	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
近年、児童虐待事件がメディアにも大きく取り上げられ、重要な社会問題として注目されている。社会的養護の意義はより一層高まっているが、課題も多く残っている。本講義では、社会的養護に関する基礎知識を学びながら、児童養護施設や児童相談所など現場の現状と課題について検討、考察していく。 講義（パワーポイント使用）を中心とするが、クラス内で意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。 【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員　 子ども・家族への支援の実際や直面している課題について触れながら、実践的な考察を行う。

授業の到達目標
社会的養護に関する基礎知識を習得する。(DP) 児童虐待やその他の困難に直面する子ども・家族の実態や課題について理解する。(DP) 子どもや家族への支援の在り方や課題について多角的に理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各自、教科書を用いて自己学習し、基礎知識の習得に努力すること。また、児童関連の文献や新聞などで学生自身で情報収集を心がける。 特に「児童虐待」「愛着：アタッチメント」「発達障害」についての情報、基礎知識を頭に入れておくと授業内容の理解と考察がより一層深まる。

評価方法
確認テスト：60%　レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20% 授業後、コメントシートなどで出た質問や疑問については、翌授業または第14回総括にてフィードバックする。

教科書	参考図書
『社会的養護』成清美治・真鍋顕久（学文社）	授業の中で紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問などは授業前後またはメールにて受け付ける。

01	オリエンテーション
02	児童虐待問題の現状と法制度
03	児童虐待への対応と課題
04	性的虐待とDV
05	アタッチメント（愛着）
06	被虐待児の理解
07	児童養護施設の現状と課題
08	社会的養護の役割
09	社会的養護にかかわる専門職に必要な知識と技術
10	児童養護施設、児童心理治療施設における治療的養育
11	日本の子ども家庭が抱える課題と歴史的背景
12	社会的養護の今後の動向
13	家庭（的）養護の意義と課題
14	総括（リフレクション、フィードバック）
15	まとめと確認テスト
16	

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:上田 一稔	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業は保育学部の教育・保育の本質・目的に関する科目に配置された専門教育科目であり、子どもを社会的に養護していくための知識や技術について学修する。具体的には施設養護と家庭養護の特性把握、個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活支援・心理的支援・自立支援の方法を理解し、保育者としての支援力を習得する。授業は毎回演習方式で少人数のグループを作り、各事例に対してグループワークを行う。

授業の到達目標
1. 社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。
2. 施設養護および家庭養護の役割や機能について理解する(DP)。
3. 個々の子どもに応じた個別支援計画書の作成の意味と留意点を理解する(DP)。
4. 社会的養護における保育士の専門性を学び、支援者としての援助実践力を身に付ける(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育のあり方について考察する力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　社会的に養護を必要とする子どもを支援する保育者は、適切な支援および技術を習得する必要がある。したがって、社会的養護に関連する文献(虐待・障害・貧困等)を読み、児童福祉施設でのボランティア活動および見学(1回4時間程度)を行うなどして研鑽することを推奨する。

評価方法
確認テスト(40%)、授業への参加態度(30%)、レポート(30%)により総合的に評価する。
・レポートは提出期限後に模範解答を示し、授業時の演習課題は毎回参考解答を示し解説する。
・最終授業時に全8回の授業のフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業時に資料配布するため、教科書は指定しない。適宜参考文献等を紹介する。 「保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」	保育所保育指針。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　日頃から子どもを取り巻く報道に関心を寄せ、自分自身の見解を持ち、授業時に発表できるようにする。授業後30分をオフィスアワーとする。連絡先は授業時に開示する。

01	オリエンテーション・子どもの権利擁護
02	施設養護の特性および実際①(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)
03	施設養護の特性および実際②(障害児施設・児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設)
04	家庭養護の特性および実際
05	社会的養護の内容(日常生活支援・心理的支援・自立支援)
06	個別支援計画の作成(自立支援計画・児童発達支援計画)・記録および自己評価
07	社会的養護における保育士の専門性および相談援助の知識と技術の実践
08	社会的養護の課題および展望・確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子ども家庭支援の心理学	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子どもは社会に生まれ、社会の中で発達していきます。子どもにとって最初に出会う最も重要な意味を持ち身近な社会が家庭です。家庭の中での保護者やきょうだいなどとの様々な相互作用を通して子どもは発達していきます。そのような家庭における子どもの発達と家族の役割について深く理解し、保育の場で実践する際の自分なりの視点を持つことを目指します。授業方法は視覚資料を使用し、一斉授業及びグループ・ワークを行います。

授業の到達目標
１．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し説明することができる（DP）
２．家庭・家族の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し説明することができる（DP）
３．子どもの精神保健とその課題について理解し説明することができる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：日常生活や実習、ボランティアなどの子どもと関わる経験を通して、子どもの意図や欲求などの感情をイメージし、授業での学修と結び付けて考えることを心がけてください。子育て支援や家族機能の変遷などの子どもを取り巻く社会状況の変化などにも関心を持ち、自分なりの考えを持つようにしてください。授業で出す課題にしっかり取り組み授業を欠席した場合でも、その回の課題は提出してください。
事後学修：授業で配布するプリントは、疑問や関心を持った内容について調べまとめなおすようにしてください。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（試験、レポート）に対しては、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
大倉得史・新川泰弘編著　(2021)　子ども家庭支援の心理学入門 大倉得史・新川泰弘編著（2020）　子ども家庭支援の心理学　ミネルヴァ書房	保育所保育指針及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	生涯発達とは何か
02	乳幼児期の発達
03	児童期の発達 児童期の発達
04	青年期の発達
05	成人期・老年期の発達
06	家族・家庭の意義と機能 子育てを取り巻く社会状況
07	家族関係・親子関係の理解
08	子育て経験と親としての育ち
09	ライフコースと仕事、子育て
10	多様な家庭とその理解
11	特別な配慮を要する家庭への支援
12	発達支援の必要な家庭への支援
13	子どもの生活・生育環境と発達への影響
14	子どもや保護者のこころの健康への理解
15	授業のまとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:特別支援基礎論	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童が生きる力を身に付けていくことができるような支援方法について学ぶ。幼児、児童の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識・支援方法について学ぶ。

授業の到達目標
①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。[DP]
②発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。[DP]
③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。[DP]
④母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教科書を読み、授業内容について予習をする。
障害のある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
試験（60%）、授業への参加態度（40%）、により総合的に評価する。
授業の最後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）	幼稚園教育要領および解説、保育所保育指針および解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教師を目指す学生は、特別の支援を必要とする子どもの基礎的な理解を深め、インクルーシブ教育システム構築を担うための理解を深めてほしい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、障害とは、特別支援教育（インクルーシブ教育システム）の理念、仕組み、課題
02	発達障害児の理解（障害の原因・特性、支援の方法）
03	知的障害児の理解（障害の原因・特性、支援の方法）
04	視覚障害児、聴覚障害児の理解（障害の原因・特性、支援の方法）
05	肢体不自由児、病弱児の理解（障害の原因・特性、支援の方法）
06	特別の教育的ニーズにある子どもの理解（外国籍、貧困、性別違和、被虐待）
07	特別支援教育における教育課程（自立活動、通級指導教室）
08	海外の特別支援教育、本講義のまとめ・試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法（健康）	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心とからだを育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に、乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。

授業の到達目標
（１）幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する。(DP)
（２）幼児期のからだの諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。(DP)
（３）安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、適切な指導方法を身に付ける。(DP)
（４）幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、適切な指導方法を身に付ける。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修としてシラバスの内容に関係する健康や運動の情報について予習しておくと良いです。事後学修として、他のグループが行った模擬保育の指導案やそれ対するコメントシートを、実習などで活用できるように自分でまとめを行ってください。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（30%)、②グループワークによる指導計画の立案とコメントシート（40%)、③模擬保育の実践（30%)
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
指定なし	新版　遊びの指導、同文書院

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで

01	保育における「健康」とは 幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「健康」のねらい及び内容の理解
02	基本的生活習慣の形成を支える援助：食事、排せつ、睡眠、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助
03	健康管理と安全能力を育む援助
04	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案1)ー健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導
05	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究1）ー健康指導、安全指導の実際
06	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育1)ー幼児の動機付けや意欲などを配慮した健康指導、安全指導の在り方
07	健康な心と体を育む保育の評価と改善1（模擬保育の振り返り）
08	多様な動きの経験を促す援助：遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成と援助
09	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
10	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案2)ー運動遊びについて
11	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究2）ー運動遊び指導の実際
12	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育2)ー運動遊び指導の実際
13	健康な心と体を育む保育の評価と改善2（模擬保育の振り返り）
14	幼児期に育まれる健康な心とからだと小学校とのつながり「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
15	幼児を取り巻く現代的課題を踏まえた健康な心と体を育む活動
16	まとめ

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法（人間関係）	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子どもは誕生後、様々な人と出会い、関わり、繋がっていく。その過程で、共感・葛藤などいろいろな思いを体験し、自己と他者、個と集団に気付いていく。これらの具体的な子どもたちの姿を事例(エピソード記録やVTR等)を通して学ぶ。特に、多文化共生社会に生きる子どもたちに必要な異文化理解の視点をグループで討議を通して学び、これらの視点を基に、保育を構想する方法を修得する。【AL】

授業の到達目標
DP１と４に関連し、下記を到達目標とする。
１．子どもと保護者の信頼関係の基盤に、保育者との信頼関係が園での生活の重要な基礎になることを理解する。
２．子どもの、主体的な友達との関わり、試行錯誤しながらの人間関係力の育ちには、保育者の役割が重要であることを理解し、援助のあり方を考えられるようにする。
３．人が尊重しあい、共感しあう関係を築いていくうえで、異文化理解の視点が必要であることを理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業時までに、関連する教科書の箇所・資料を熟読する。時に、事前課題を出すこともある。（２～３時間）また、事後学修として、課題レポートを完成させておくこと（１時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、プレゼンテーション（20%）、課題（20%）、授業への参加態度（10%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係」無藤隆監修　萌文書林	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、幼児と人間関係の学びから保育内容指導法「人間関係」へ
02	幼児教育・保育の基本
03	子どもと保育者の関わり：子ども同士の関わりにおける保育者の役割
04	子どもと保育者の関わり：多文化共生社会に生きる子どもたち
05	子どもと保育者の関わり：事例検討（グループディスカッション）
06	子どもと保育者の関わり：プレゼンテーション
07	子どもの人間関係の育ちにおける遊びの重要性
08	遊びの中の人とのかかわり：事例の分析
09	幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領をひもとく
10	人間関係に焦点を当てた保育構成を考えるーグループによる指導案作成ー
11	指導案についてのプレゼンテーションと討議
12	生活を通して育つ人との関わり：事例を考える
13	個と集団の育ち：リョウガ君のビデオを見て
14	人とのかかわりを見る視点：自立と依存
15	保育実践の動向：幼児教育の現代的課題と領域人間関係の重要性
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法（表現）	担当者:田端 智美・麓 洋介	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園教育要領等の領域「表現」を理解するとともに、主に保育士・幼稚園教諭における指導者の立場として音楽・造形等に関する知識を得る。子どもの表現に関する理論を学ぶ。また子どもと豊かに関わり育ちを支えるための表現力を磨き他者と協力して創意工夫することを学ぶ。

授業の到達目標
自分が表現するだけでなく、子どもに対してどのように指導を行えばよいのかを授業全体を通して考え、模擬授業ができるまでの技術を身につける。また保育における豊かな感性や表現する力を養い、想像力を豊かにする。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：表現における各年齢の発達について、今までの実習の子どもの姿を鑑み、ノート等にまとめることを勧める。
事後学修：各回の授業において、情報機器を用いてポートフォリオにまとめる

評価方法
レポートおよび課題40%･試験40%・授業態度20。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針解説書	『楽しさはじける表現遊び』

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学生へのアドバイス：子どもの表現について自ら楽しんで授業に積極的に参加してください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・授業紹介・授業の受け方・ポートフォリオの作り方説明　表現とは？
02	子どもの音楽・造形等表現について1(幼稚園教育要領等の目標と内容)
03	子どもの造形等表現について1（0－3歳児の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当:田端）
04	子どもの造形等表現について2（4－5歳の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当：田端）
05	子どもの造形等表現について3（幼稚園教育の評価・小学校の教科とのつながり）（担当：田端）
06	子どもの音楽等表現について1（0－3歳児の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当:：麓）
07	子どもの音楽等表現について2（4－5歳の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当：麓）
08	子どもの音楽等表現について3（幼稚園教育の評価・小学校の教科とのつながり）（担当：麓）
09	造形等の指導法１（環境の構成や言葉がけ）（担当：田端）
10	造形等の指導法２（幼児の表現に至るプロセス）（担当：田端）
11	音楽等の指導法１（環境の構成や言葉がけ）（担当：麓）
12	音楽等の指導法２（幼児の表現に至るプロセス）（担当：麓）
13	模擬授業1（指導案作成）
14	模擬授業2（模擬保育　保育者と子どもの立場でロールプレーイング）（AL）
15	模擬保育3（模擬保育のまとめ・ＩＣＴを用いて発表・振り返り）（AL）
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:教育の方法	担当者:内田 将平	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、小学校・幼稚園における教育の方法・技術についての講義を行う。その際、適宜、小学校・幼稚園における実践記録を読んだり、実践場面のビデオを見たりする。また、Moodleを活用した授業内レポートと相互コメントの機会を設ける。

授業の到達目標
①幼稚園教育の方法・技術を理解する。
②小学校との連携についてその方法・技術を理解する。
③小学校の教育の方法・技術について理解する。
④教育・保育におけるICTの活用方法を理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日頃から保育・教育に関する新聞（ネットニュースを含む）スクラップ等を行い、各自の興味関心のある分野の情報収集を行うようにしてください。また、学生同士のミニレポートに相互コメントをする活動を通して、異なる考え方に触れ、視野を広めるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度30%、グループ・ワーク20%、期末レポート50%で総合評価を行う。

教科書	参考図書
とくに使用しない。	幼稚園教育要領及び解説・小学校学習指導要領及び解説。その他、講義内で適宜指示をする。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　Moodleを活用し資料の提示、講義内でのレポート課題、相互意見交流の機会を設けます。講義中にMoodleを活用するため、講義にはPCが必携です。オフィスアワーや連絡先は初回講義で伝えます。

01	オリエンテーション
02	西洋における教育方法の歴史と基礎的理論
03	日本における教育方法の歴史と基礎的理論
04	学力めぐる論争の変遷
05	学習の原理と形態
06	授業のデザインと教育評価の手法
07	授業研究の手法
08	プログラミング教育の意義と方法
09	幼稚園における集団生活の意義と遊びを通した教育の方法
10	いざこざ場面における教育の方法
11	諸外国の幼児教育から学ぶ⑴：オーストリアとハンガリー
12	諸外国の幼児教育から学ぶ⑵：フランス
13	ウィズ・コロナ時代の学校での学びの展望と課題
14	教育方法プレゼンテーションの準備（グループ・ワーク）
15	教育方法プレゼンテーションの発表と討議＆まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:幼児と健康	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、乳幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。授業ではICTの活用、協働学習も行う（AL)。

授業の到達目標
((①乳幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解し、説明できる（DP)。
②乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明できる（DP)。
③安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、説明できる（DP)。
④乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明できる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・乳幼児を取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持つようにする。
・授業の事前事後に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説をしっかりと確認し、理解を深めるように努める。
・実習等で乳幼児と関わる機会を積極的に活用し、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣を理解することに努める。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（40%）、②発表・レポート（30%）、③講義内容に関する筆記試験（30%）　学生へのフィードバックはリアクションペーパーを使用します。

教科書	参考図書
担当教員作成の資料を使用する。	幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを使用し、資料の閲覧を行うこともある。
・授業形態としては、各自でまとめた課題レポートを基にグループで話し合ったり、話し合った内容を発表し合ったりする参加型の学習活動を重視する。
・質問や相談等の連絡手段　terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	乳幼児の健康問題 乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の形成 幼児の安全教育と危険 幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防 乳幼児期の運動発達の特徴 日常生活における運動 遊びとしての運動 乳幼児期の健康課題
02	領域「健康」について
03	乳幼児期の身体の発達的特徴
04	乳幼児期の生活習慣の形成
05	乳幼児期の運動発達の特徴、社会性の発達
06	日常生活における運動
07	遊びとしての運動
08	幼児の安全教育と健康管理
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:幼児と人間関係	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 本科目では、保育においてその命と成長を保障すべき、乳幼児という存在が、人とのかかわりの中で、成長していく様子について学ぶ。その時に重要なことを学ぶ。そして、家庭から園や地域へと活動範囲が広くなるにつれて、関わる人たちも増え、社会性が育まれていく様子を事例や映像を通し学ぶ。グループディスカッションで学生同士の意見を分かち合うとともに、コミュニケーションシートを使って質疑応答を行う。【AL】
授業の到達目標 DP１に関連し、下記を到達目標とする。 １．乳幼児の育ちに、安心・安全を培う養育者との相互交流が重要であることを理解する。 ２．様々な人とのかかわりの中で、社会性が育つことを理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 毎回の授業時までに、関連する教科書・資料等を熟読するとともに、課題に取り組む（２～３時間）。事後学修では、課題レポートを完成させる(１時間)。
評価方法 ルーブリックの視点から、最終レポート（50%）、課題（40%）、授業への参加態度（10%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じで全体へも伝える。

教科書	参考図書
「事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係」無藤隆監修　萌文書林	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、人を求めて生まれてくる赤ちゃん　人間関係って？
02	自分自身を見つめることと他者・他者との関係について考えること
03	乳幼児の人とのかかわりの中での発達を考える
04	親や家族との出会いと関わり：事例を読んで
05	保育者との出会いと関わり：リョウガ君のビデオを見て
06	保育者との出会いと関わり：安心な場所と人を得て
07	友達との出会いと関わり：対等な他者に出会う
08	友達との出会いと関わり、課題テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児と表現	担当者:田端 智美・石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
身体・造形・音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶ。自らも表現する事によって、幼児の表現を支えるための感性の素地を身につける。また協働して表現することにより他者の表現を受け止め共感する力を身につける。これらのことを通し、幼児の表現活動に展開する力を身につける。

授業の到達目標
幼児の表現する姿や、その発達を理解する。 (DP)
表現遊びや環境構成などの知識･技能、表現力を身につける。 (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：授業で使用する素材等を準備し、特性を調べる。
事後学修：授業のドキュメンテーションを作成し、実際の保育に役立つ様にする。

評価方法
レポート及び課題・表現活動40%　ポートフォリオ40%　授業態度20%フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針 授業内で指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日頃から身体・造形・音楽表現を自ら楽しんでください。
田端：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp
石山：isiyama@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・幼児の表現の特性（具体的事例を通して）（石山・田端）
02	第２回：身近な素材を用いた表現活動１（絵本を製作する事を通して自然を伝える）（田端）
03	第３回：身近な素材を使った表現活動２（絵本を製作する事を通して文化を伝える）（田端）
04	第４回：身近な素材を使った表現活動３（壁面を製作する事を通して季節を伝える）（田端）
05	第５回：身近な素材を使った表現活動４（手作り楽器をつくって合奏を楽しむ）（石山）
06	第６回：身近にある「音」を探す（生活を取り巻く音を採取し鑑賞を楽しむ）（石山）
07	第７回：音と身体表現（音や音楽に合わせた身体表現を楽しむ）（石山）
08	第８回：まとめと振り返り　ICTを用いたポートフォリオの作成（石山・田端）（AL）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもの保健	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 子どもの保健では、子どもの健やかな成長や発達、病気の特徴や予防法などを学びます。この講義では子ども達の健全な成長を支援するため、子どもの保健の意義を理解し、発育（月齢や年齢）にともない変化する身体的な特徴、生理機能、運動機能や精神機能（社会性）の発達、子どもの疾病とその予防について学びます。
授業の到達目標 1.子どもの身体発育、生理機能、運動機能、疾病などに関する幅広い知識を習得し、体系的・総合的に理解を深める(DP) 2.ICT スキル（PC を用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する(DP) 【到達目標と深く関連する学科DP】 ○保育のあり方について考察する力 ◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 子どもの保健で覚えるべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を必ず行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。
評価方法 授業への取組30%、授業内での提出物20%、学期末試験50% 最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
保育者のためのわかりやすい子どもの保健（日本小児医事出版）	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで Moodleを利用しますので、毎週の授業時にノートパソコンを持参してください。

01	ガイダンスおよび子どもの保健の現状、保健水準
02	行政が実施している母子保健活動(AL)
03	虐待の防止と支援
04	発育と発達の評価　成長曲線、統計用語の理解
05	生理機能の発達① 呼吸と循環
06	生理機能の発達② 体温調節・感覚機能・睡眠
07	乳幼児期の運動指針
08	運動機能の発達、スキャモンの臓器別発育曲線
09	子どもの健康状態の観察、健康診断
10	子どもの身体発育の評価
11	精神機能の発達、認知機能
12	感染症の種類と予防
13	感染症対策
14	アレルギー疾患
15	子どもに多い疾患
16	まとめと試験

2022年度シラバス

科目名:子どもの健康と安全	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの健康及び安全は、子どもの生活の基本である。この授業では、子どもの健康管理や安全の確保について、関連するガイドラインなどを参照しながら学習を進めていく。安全の確保の一環として防災についても学習する。

授業の到達目標
1.保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 (DP)
2.関連するガイドライン等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 (DP)
3.子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。(DP)
4.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育のあり方について考察する力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもの保健で覚えるべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を必ず行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
授業への取り組み（30%)、プレゼンテーション課題（30%)、講義内容に関する筆記試験（40%)
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
保育者のためのわかりやすい子どもの保健（日本小児医事出版）、子どもの保健でも使用	厚生労働省のホームページにある各種ガイドライン

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで
Moodleを利用しますので、授業時にノートパソコンを持参してください。

01	子どもの健康と安全とは、オリエンテーション
02	保育所における感染症対策ガイドライン
03	保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
04	保育所等における新型コロナウイルスへの対応について
05	教育・保育施設等における事故防止
06	個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）
07	避難訓練、防災訓練
08	保育における保健活動の計画及び評価
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもの食と栄養	担当者:辻岡 和代・早瀬 和利	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）
２．子どもの発育・発達と食生活、特別な配慮を要する子どもの食についての理解を深める為の演習（6回）
３．グループ学習とプレゼンテーション（3回）

授業の到達目標
１．食と健康がどのように関わっているかを理解できる。【DP】
２．保育者として必要な栄養についての基礎知識や技能、食育、食生活に関する諸問題について理解できる。【DP】
３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけ、仲間と協力しながら他者へ伝えることができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行ってください。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学んできてください。
具体的な学修活動については、授業内で提示します。（4時間程度）また、提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行います。

評価方法
授業への参加態度30%、確認テスト40%、プレゼンテーション30%の割合で評価する。

教科書	参考図書
子どもの食と栄養　建帛社	保育所保育指針　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は、メール、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	子どもの健康と食生活の意義　　（辻岡）
02	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（１）母乳・育児用ミルク　（辻岡）
03	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（２）冷凍母乳・離乳食　（辻岡）
04	幼児期の心身の発達と食生活・家庭や児童福祉施設における食事と栄養　（辻岡）
05	学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活　（早瀬）
06	特別な配慮を要する子どもの食と栄養　（辻岡）
07	食育の基本と内容　（辻岡）
08	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（１）炭水化物　（早瀬）
09	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（２）タンパク質　（早瀬）
10	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（３）脂質　（早瀬）
11	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（４）ビタミン　（早瀬）
12	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（５）ミネラル　（早瀬）
13	食事摂取基準　（早瀬）
14	総括と確認テスト　（辻岡・早瀬）
15	プレゼンテーションとその活用　（辻岡）　【AL】
16	

科目名:障害児保育	担当者:勝浦 眞仁・小柳津 和博	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:なし		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．障害児保育を支える理念、２． 障害児等の理解と保育における発達の援助、３．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、４．家庭及び自治体・関係機関との連携 、５．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 、これらについてDVD等の映像や事例を活用しながら学ぶ。

授業の到達目標
① 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する(DP)。
② 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する(DP)。
③ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する(DP)。
④ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関 係機関との連携・協働について理解する(DP)。
⑤ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読み、授業内容について予習をする。グループによる事例検討を行い、支援の方法を学び合う活動も行う。障がいのある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
2名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。授業内容発表（5%）、事例検討会発表（10%）、小テスト・レポート（70%）、授業への参加態度（15%）により総合的に評価する。授業に関する意見・質問およびテストについてのフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）	保育所保育指針および解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者を目指す学生にとって、障がいのある子どもたちとの出会いは貴重な機会であり、自身の保育観・障がい観を見つめ直す機会となる。これまでの学びや実習での体験を基に、さらなる理解を深めてほしい。
連絡先：katuura@ohkagakuen-u.ac.jp
oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp
kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	＜小柳津担当＞　障害児保育の歴史的変遷―統合保育まで―
03	障害児保育の現状―インクルージョンに向けて―
04	子ども同士の関わり合い・育ち合い
05	個々の発達を促す生活と遊びの環境
06	保護者・家族への連携
07	個別の支援計画・指導計画の作成と活用、ケース会議
08	＜勝浦担当＞配慮を必要とする子ども（気になる子ども）
09	医療的ケア児の保育
10	ＮＰＯ・学童保育での障害児保育
11	乳幼児健康診査、就学時健康診断
12	関係者との連携（地域専門機関、小学校）
13	特別支援教育からインクルーシブ教育へ―障害者権利条約と合理的配慮―
14	事例検討会の準備
15	事例検討会（発表）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:乳児保育Ⅰ	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、保育の中でも乳児の保育に特化し、３歳未満児および３歳児の発達の姿とそれを踏まえた保育の内容・方法を系統的に学ぶ。そして、３歳未満児保育の意義、乳児理解に関する様々な理論等について学ぶ。特に、乳児の具体的な姿を想像しながら学べるように、動画や事例を活用し、また、わらべうた等実践も取り入れる。コミュニケーションシートを使っての質疑応答を行う。【AL】

授業の到達目標
DP1に関連し、下記を到達目標とする。
１．乳児保育がなぜ必要か、その意義と目的について理解する。
２．乳児保育の現状と課題について理解する。
３．３歳未満児の発達を踏まえた保育内容について理解する。
４．乳児保育における職員・保護者や地域との連携について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業時までに、関連する教科書の箇所・資料を熟読するとともに、授業に向かう際の目標を決めておくこと。時に、事前課題を出すこともある。（２～３時間）また、事後学修として、課題レポートを完成させておくこと（１時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、課題（40%）、授業への参加態度(10%)で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「改訂5版　資料で分かる乳児の保育新時代」乳児保育研究会編　ひとなる書房	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション・赤ちゃんって？
02	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
03	子どもの姿を通しての発達理解と保育（その１：０歳児）
04	子どもの姿を通しての発達理解と保育（その２：１歳児）
05	子どもの姿を通しての発達理解と保育（その３：２～３歳児）
06	3歳未満児の生活（その1：栄養と食事）
07	3歳未満児の生活（その２：排泄）
08	3歳未満児の生活（その３：安全・清潔・睡眠）
09	3歳未満児のあそび（その１：遊び・ふれあいの大切さ　0歳児）
10	3歳未満児のあそび（その２：1歳児）ビデオの事例の意味を考えてみよう
11	3歳未満児のあそび（その３：2～3歳児）
12	保育の記録
13	保育の計画
14	保育士のあり方―職員・保護者・地域との連携協働
15	乳児保育の現状と課題とこれから
16	定期試験

科目名:海外の保育	担当者:石山 英明・内田 政一・加藤 あや美・田端 智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育・幼児教育にグローバル・スタンダードはあるのだろうか。国や地域によって、保育・幼児教育に「差異」があるとしたら、それはどのような背景からもたらされるのだろうか。我が国では保育者不足が深刻である。人間の営みにおいて、根源的で「エッセンシャル・ワーク」とも言われる保育者のなり手が現在何故減少しているのだろうか。この授業では上記の問題意識から、諸外国の保育・幼児教育の制度、特性、形態を学び、それを考察する。具体的な事例に基づき、受講者の「幼児教育観・保育観」を、アクティブラーニングの手法も取り入れ、醸成していく。新しい時代を生きる子どもたちに相応しい保育、幼児教育、子育てのあり方を、共に考えたい。

授業の到達目標
海外の保育・幼児教育のあり方（制度、概念、背景）を知り、その共通性と多様性を理解する（DPab）。
海外の保育・幼児教育との比較から、日本の保育・幼児教育の現状と目指している姿・方向性についても、自分なりに考察し、説明することができる（DPb）。
海外の保育・幼児教育について包括的な知識を得て、多様な子どもや子育てに関する支援を行うのに必要な力や考え方を身につける（DPc）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養（DPa）
◎保育のあり方について考察する力（DPb）
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力（DPc）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
新聞やニュースに触れて、時事問題や文化を知り、自分の興味の幅や視野を広げておく。
日常生活の中で出会う、子ども・子育てに関する場面から、子どもの姿やその素晴らしさについて、常にそのイメージを持つようにする。
毎回の授業で、課題や次回のテーマをアナウンスします。授業までに予習をし、テーマについて自身の考えを持って授業に臨むようにすること。また、授業後に、テーマに沿った学びを深め、その次の授業で積極的に発表をしてください。

評価方法
授業への参加態度 50%　小テスト　25%　確認テスト　25%
フィードバックの方法：各回の質問等に関しては、次回授業時又は最終回にフィードバックする。

教科書	参考図書
保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領	授業内で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	授業概要（日本と世界の保育・幼児教育はどこに向かうのか、世界が保育・幼児教育に投資する理由）（担当教員）
02	ドイツの保育・幼児教育① 森の幼稚園とドイツの公立園（石山）
03	ドイツの保育・幼児教育②　シュタイナー幼稚園とドイツの子育て（石山）
04	フランス他の保育・幼児教育（田端）
05	イタリアの保育・幼児教育① レッジョ・アプローチとイタリアの公立園（石山）
06	イタリアの保育・幼児教育② モンテッソーリ教育とイタリア文化・人・環境（石山）
07	オーストラリアの保育・幼児教育①（EYLF）（内田）
08	オーストラリアの保育・幼児教育②（The NQF）（内田）
09	オーストラリアの保育・幼児教育③（NQS）（内田）
10	ニュージーランドの保育・幼児教育①（Te Whariki）（加藤）
11	ニュージーランドの保育・幼児教育②（Assessment in Early Childhood Settings）（加藤）
12	アジアの保育・幼児教育（田端）
13	カナダの保育・幼児教育（田端）
14	アメリカの保育・幼児教育(加藤)
15	まとめとレポート（担当教員）
16	

2022年度シラバス

科目名:地域研究Ⅰ	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
オーストラリアの歴史は、高校の世界史にも登場せず、一般に学ぶ機会はほとんどない。本科目では、国際教養こども学科学生としてオーストラリアへの長期留学を見据えて、同国事情を学ぶ。同国の成立から歴史、社会全般を学ぶ。特に白豪主義から文化多元主義に転換したオーストラリア社会の変化については詳しく扱う

授業の到達目標
オーストラリア事情全般に明るくなるようになることを到達目標とする。実際にこの科目終了後1ヶ月後には現地での生活(留学)が始まるので、現地事情とその文化的・歴史的背景をしっかり学び同国事情に詳しく知っていると言えるものとなるようにする。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
近づく長期留学と有機的に関連付けて、オーストラリアに関する総合的知識を上げるべく各自で努力すること。

評価方法
出席及び受講姿勢　20%　　授業毎のレポート　30%　　年末レポート　20%　　期末試験　30%　　課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書 参考文献等　授業内で提示する	参考図書 「オーストラリアの歴史」M.クラーク(絶版につき図書館等で閲覧してください)

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

01	地域研究とは　オーストラリア研究
02	先住民アボリジニー（1）
03	イギリスのボタニー湾入植
04	ニュージーランド事情
05	オーストラリア大陸全土への入植
06	日豪関係史　ブルームの今昔
07	①ゴールドラッシュ　②ユーレカ砦事件
08	ブッシュレンジャー　オージーフットボール
09	オーストラリア連邦結成の道程
10	①白豪主義　②オーストラリア連邦成立後
11	①第一次世界大戦とオーストラリア　②第二次世界大戦～カウラ事件
12	ガリポリ戦を考える
13	先住民アボリジニー（2）～アボリジニー政策の変化
14	「盗まれた世代」とは
15	ヘンリー・ローソン　オーストラリア文学
16	期末試験

科目名:地域研究Ⅲ	担当者:生井 正人	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目では私達の生活の基盤となっている資本主義の成り立ちを学びます。この仕組みの成長・発展には長い年月と人々の努力による古い仕組みの大きな変革が必要でした。授業ではフランス革命を例にとり、私的所有と営業の自由の確立、土地所有の変革、所有権と生存権の問題、革命後の工業化の進展などを学習します。フランス革命史の勉強を通じて皆さんは明治維新以降の日本の近現代史の理解をも深めることになるでしょう。

授業の到達目標
受講生の皆さんはフランスにおいてどのように政治的民主主義の原則が打ち出され、また資本主義発展の条件が作り出されたのか、そしてそれらを基にしてどのように同国の工業化が進められ、イギリスを中心とする資本主義世界が構成されていくのかを理解するでしょう。また民主主義と資本主義に関して現在の日本及び国際社会が抱える問題を様々な角度から見る目を養うことができるでしょう。 (DP:知識／思考力など)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
予習として、基本事項の確認（世界史・世界地理の復習）をしておいてください（1～2時間程度）。
復習として、参考文献（授業内で指示します）を通読してください。（毎日1～2時間程度）。
以上の他に、新聞、テレビなどでニュースをチェックするようにしてください（毎日30分程度）。

評価方法
授業への参加態度（課題の消化・提出等）50%　定期試験50%
授業において提示した課題は成績評価をした上で後日返却します（レポート：3段階評価　中間試験：5段階評価）。

教科書	参考図書
使用しません。	授業中に指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講生の皆さんは、18・19世紀の歴史を、自分自身の生活に引きつけながら学んでください。
初回のガイダンス時に連絡先（メールアドレス）をお知らせします。

01	ガイダンス
02	17・18世紀におけるヨーロッパの社会と経済およびフランス革命のアウトライン
03	封建社会の構造（1）フランス革命以前の農村
04	封建社会の構造（2）フランス革命以前の都市
05	人権宣言
06	封建制の解体（1）領主権の廃止と農事基本法
07	封建制の解体（2）ギルドの廃止とル・シャプリエ法
08	経済危機（1）農村の食糧暴動とドリヴィエ
09	経済危機（2）財政危機とアッシニア
10	経済危機（3）都市民衆の活動とジャック・ルー
11	革命独裁と最高価格法
12	所有権と生存権をめぐって（1）ジャコバン右派と左派
13	所有権と生存権をめぐって（2）バブーフの陰謀
14	ナポレオン体制と産業革命（1）フランス国内産業の展開
15	ナポレオン体制と産業革命（2）大陸諸国の産業の展開
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:地域研究Ⅳ	担当者:近藤 有希子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「アフリカ」に関する私たちのイメージは、極めて限定的な像にとどまってきました。そこには、アフリカと日本との地理的な遠さや、歴史的な関係の薄さなどが影響しています。本講義では、アフリカの多元的な社会や文化、人びとの生活や実践を知ることを通して、アフリカのもつゆたかな可能性や、グローバル化する世界におけるアフリカと私たちの暮らしとのつながりについて、ともに考えたいと思います。

授業の到達目標
・アフリカに関する一面的な理解を拒否し、別の側面から捉える努力をすることができる。【DP】
・地理的に遠いアフリカと私たちの暮らしのつながりを認識することができる。【DP】
・アフリカの人びとの多彩な生きざまを知り、ときにその困難に対して応じることができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃からアフリカに関するニュースに関心をもち、新聞や書籍、インターネットなどから主体的に情報を収集しましょう。

評価方法
授業への参加度（受講態度・発言・リアクションペーパー）60%、最終レポート 40%
課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
適宜資料を配布します。	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業中の議論や発表に積極的に参加しましょう。連絡先は初回の授業で伝えます。

01	オリエンテーション：「アフリカ」のイメージについて考える
02	アフリカのさまざまな生業：狩猟採集／牧畜／（焼畑）農耕
03	アフリカ都市の暮らしと経済開発：不確実な社会を生きぬく生計戦略
04	アフリカの小農と私たちの生活①：植民地主義と一次産品への依存
05	アフリカの小農と私たちの生活②：グローバルな貿易と価格形成
06	アフリカの小農と私たちの生活③：フェアトレードというかかわり
07	アフリカの紛争とその特質①：紛争の「大衆化」と主体の多様化
08	アフリカの紛争とその特質②：ルワンダの「民族対立」の形成
09	アフリカの紛争とその特質③：難民の流出と紛争の再発
10	アフリカ紛争後社会を生きる①：移行期正義の諸相
11	アフリカ紛争後社会を生きる②：軍事化する社会と若者たちの未来
12	アフリカの鉱物資源問題：「紛争ダイヤモンド」とDRコンゴの紛争
13	アフリカを調査する①：熱帯病対策と危機管理
14	アフリカを調査する②：「書く」ということ
15	まとめ
16	

2022年度シラバス

科目名:地域研究Ⅴ	担当者:布 和	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この授業は保育学部ディプロマポリシーで求められる学びの課題の一部である「課題を発見・理解し解決しうる力（豊かな教養、専門的な知識・技能・思考力・判断力の育成）」の養成に関連している。授業は、広くアジアを視野にそれぞれの地域に分けて学習する。授業過程では、アジア全体の状況を紹介した上、関連する国々の歴史・文化・宗教などの事相を紙媒体資料並びに視聴覚資料を通して学ぶ。授業の形として、グループ学習やプレゼンテーションを取り入れるつもりである。

授業の到達目標
　15回の講義を通じて、アジアに関する基本的な知識(DP)を身につけ、それぞれの地域が直面する課題についての深い理解(DP)を持つことを期待したい。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養 ○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　アジアの多様性や各国が直面する多くの課題を十分に理解するには予習と復習にそれぞれ2時間を使ってほしい。

評価方法
　欠席数が6回になれば、単位を不認定する。成績は授業参加意欲（30%）、プレゼンテーション（30%）及びレポート（40%）を総合して評価する。なお、プレゼン後の質疑応答時間を以ってフィードバックとしている。

教科書	参考図書
教科書を使用しないが、授業ごとに資料を配布する予定。	授業中に指定する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業の進度は事情により多少の変更が生じる。教員の連絡先とオフィスアワーは授業中に知らせる。

01	講義紹介（アジアの現状）
02	アジアの歴史
03	アジアの政治
04	アジアの経済
05	アジアの宗教
06	アジアの文化
07	アジアの課題
08	第一回目の学生によるプレゼンテーション
09	東アジア
10	東南アジア
11	南アジア
12	西アジア
13	中央アジア
14	これからのアジア
15	第二回目のプレゼンテーション
16	なし

2022年度シラバス

科目名:地域研究VI	担当者:塚本 江美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【アメリカ】
文化・政治・社会・歴史といった様々な視点からアメリカ合衆国を多角的に読み解き、その問題を考えることで、国際教養こども学科のディプロマポリシーにある「グローバル社会で通用する異文化適応能力及び異文化コミュニケーション能力」を養います。授業は事前課題への取り組みをもとに、グループディスカッションを通してアメリカについての理解を深めます。【AL】授業後、授業内容を踏まえた分析や考察をレポートにしてMoodleから提出してもらいます。

授業の到達目標
①アメリカ合衆国の社会・文化・思想についての基礎的な知識を習得し、グローバルな時代におけるアメリカ合衆国のあり方を理解する。②他国を理解することを通し、私たちの生きる自国と現代を理解する。③多角的なアプローチを学ぶことにより、異なる文化への理解を深め、多様な立場を理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各授業において、以下の通りの授業外学習活動が求められます。
準備学習（2時間）：事前に与えられたリーディング課題を読んでおくこと。
事後学習（2時間）：授業内で学んだ内容について復習し、情報を自分なりに整理し、分析、考察したレポートをMoodleから提出すること。

評価方法
Moodleから提出のレポート 50%　確認テスト 50%
授業において提示した課題に対するフィードバックは提出後の授業の中で共有します。

教科書	参考図書
授業時に資料を配布します。	有賀夏紀・油井大三郎『アメリカの歴史 -- テーマで読む多文化社会の夢と現実』（2003年、有斐閣 アルマ）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内で取り上げるトピックについて、ただ受動的に受け止めるだけでなく、能動的に自分なりに考える姿勢を大切にしましょう。「自分はどう感じ、考えたか」に常に意識的になってください。オフィスアワー、教員連絡先は授業内に指示します。

01	イントロダクション：アメリカを学ぶ
02	アメリカの地理
03	アメリカの歴史１
04	アメリカの歴史２
05	奴隷制と近代化
06	先住民とホロコースト
07	アフリカ系アメリカ人
08	日系人
09	現代アメリカの格差問題１
10	現代アメリカの格差問題２
11	現代アメリカの格差問題３
12	現代アメリカの格差問題４
13	現代アメリカの格差問題５
14	ディスカッション
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:Teaching English for Children	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This aim of this course focuses on the teaching of English to children between 5 and 12 years old. This course provides effective teaching methodology and various teaching materials that can be used when teaching English to EFL children. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to
1) Understand what skills are required for teaching English to children (DP)
2) Plan lessons focused on selected themes, vocabulary items, grammatical structure (DP)
3) Understand important factors to construct teaching including ICT use. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring English/ Japanese dictionary to class. The course uses an active learning approach. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 20% Writing Assignment 20% Micro-teaching 20% Teaching Materials 20% Review Test 20%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Maiko Tsuchiya (2015) Happy English for Childcare (金星堂)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour : Thursday lunch time)

01	Course introduction
02	First and Second Language Acquisition
03	Methods and Approaches in Language Teaching
04	Teaching Listening & Speaking
05	Teaching Reading & Writing
06	Classroom Management
07	English Expressions Familiar to Children① Classroom Commands
08	English Expressions Familiar to Children② Daily Life of Children
09	Teaching Materials① Games & Flashcards
10	Teaching Materials② Songs & Picture Books
11	Individual Lesson Planning①
12	Group Lesson Planning②
13	Individual Micro-teaching①
14	Group Micro-teaching②
15	Review Test
16	None

科目名:Study Abroad Preparation	担当者:内田 政一・加藤 あや美・寺田 恭子・田端 智美・木村 達志・髙橋 一郎・ダーリンプル 規子・森山 雅子・石山 英明・小野 克志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:Certificate III in Early Childhood Education and Care		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:前期に行われる説明会等に必ず出席すること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業は、3年次における海外保育ライセンス・プログラム参加に向けた事前学習を行うものです。約11カ月間の留学生活を有意義なものにするためには、留学先で起こり得る様々な課題を想定した事前学習が必要となります。授業内においては、留学を行うオーストラリアの事情から現地での学生生活等、プログラムについての詳細な解説、説明をしていきます。また、留学先に提出する書類作成等の手続きも同時に行っていきますので、授業の形態は、講義形式を交えながらのグループワーク等の演習形式とします。【AL】

授業の到達目標
　本プログラムに参加する意義を考え、留学先の国や保育分野の事情について理解することができる。また、留学先への手続き作業を通して、優先順位を考え、物事を遂行するという習慣や態度を身につける。さらに、グループワーク等から協働して動く力を身につけ、現地での生活で困らない程度にコミュニケーション能力を向上させる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　留学に関する書類等の提出を求められた場合は指示に従い、必ず期限までに提出できるよう仕上げること。また、留学先の国や地域の情報は、授業外においても自ら積極的に収集するようにし、参加前までに留学に対する意識を高めつつ、毎回の授業に臨むこと。さらに、導入されている英語教育プログラムに定期的に取り組むこと。

評価方法
　授業への参加態度30%　　レポート・書類作成30%　　グループワーク20%　プレゼンテーション20%
　課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布する。	授業内で紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　海外保育ライセンス・プログラムは必修留学となっていることから、全員が毎回の授業に必ず出席すること。また、留学参加に必要な重要な説明や書類作成等、実務的な作業も含まれるため、やむを得ない事情以外の遅刻・欠席は認めない。加えて、現地生活を見据えたグループワークも多く取り入れていくことから、留学をする仲間たちとのコミュニケーションを密に図っておくこと。（教員との連絡手段は授業にて紹介する。）

01	海外保育ライセンス・プログラムの概要説明
02	旅行取扱業者による説明会
03	英語学習ガイダンス
04	語学学校留学体験に基づくグループディスカッション
05	英語学習計画作成
06	保育コース留学体験に基づくグループディスカッション
07	オーストラリアにおける教育・保育①：教育・保育制度
08	オーストラリアにおける教育・保育②：EYLF
09	オーストラリアにおける教育・保育③：グループワーク
10	旅行取扱業者による最終説明会
11	安全指導①：ケーススタディ
12	安全指導②：グループディスカッション
13	安全指導③：本学の危機管理体制
14	保育コース学習計画の作成①：講義部分
15	保育コース学習計画の作成②：実習部分
16	なし

2022年度シラバス

科目名:Intermediate Communication in English Ⅰ	担当者:Indu Juneja・Lauren Landsberry・Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 3, Macmillan	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

01	Unit 1: Memories part 1: Listening & Speaking
02	Unit 1: Memories part 2: Skills Expansion
03	Unit 2: Life Changes part 1: Listening & Speaking
04	Unit 2: Life Changes part 2: Skills Expansion
05	Unit 3: Viewpoints part 1: Listening & Speaking
06	Unit 3: Viewpoints part 2: Skills Expansion
07	Review 1
08	Unit 4: Problems part 1: Listening & Speaking
09	Unit 4: Problems part 2: Skills Expansion
10	Unit 5: Thinking Ahead part 1: Listening & Speaking
11	Unit 5: Thinking Ahead part 2: Skills Expansion
12	Unit 6: Imagine! part 1: Listening & Speaking
13	Unit 6: Imagine! part 2: Skills Expansion
14	Review 2
15	Review of all units and progress check
16	No test

2022年度シラバス

科目名:Intermediate Communication in EnglishⅡ	担当者:Indu Juneja・Lauren Landsberry・Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 3, Macmillan	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

01	Unit 7: My World part 1: Listening & Speaking
02	Unit 7: My World part 2: Skills Expansion
03	Unit 8: Past Events part 1: Listening & Speaking
04	Unit 8: Past Events part 2: Skills Expansion
05	Unit 9: Feelings and Opinions part 2: Skills Expansion
06	Review 3
07	Unit 10: What if…? part 1: Listening & Speaking
08	Unit 10: What if…? part 2: Skills Expansion
09	Unit 11: Work it out part 1: Listening & Speaking
10	Unit 11: Work it out part 2: Skills Expansion
11	Unit 12: Looking back part 1: Listening & Speaking
12	Unit 12: Looking back part 2: Skills Expansion
13	Review 4
14	Review of all units and progress check
15	No test
16	

2022年度シラバス

科目名:教育実習Ⅰ	担当者:田端 智美・森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:教育実習入門を履修済みであること		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
今までの学びや体験を活かして、課題を持ちながら幼児と関わる中で、幼稚園教育の実際を学ぶ。また、教師としての職業倫理などの理解を深め知識・技術・態度の実践的な履修を目指す。同様に、修得した理論を実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解して保育観・教育観を培う。
主に観察実習を行い、後半に参加実習、指導実習を行う。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能について実際に即して理解する。　②幼児の理解を深める　③幼稚園の教育・保育について体験的に学ぶ　④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ　⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について実際に即して学ぶ。また幼稚園と家庭・地域等との関係について学ぶ。　⑥幼小の連携について理解を深める　⑦幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・実習の実施に先立って、教育実習入門で学んだことをよく確認すること
・事前訪問時に実習園から頂いた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること

評価方法
実習園からの評価６０％・実習日誌２０％・事後レポート１０％・その他（実習の意欲・実習状況・巡回指導報告書など）１０％を総合して評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
教育実習Ⅰハンドブック	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・本実習を行うにあたり「教育実習指導Ⅰ」を履修すること　・実習中の遅刻早退欠席は事前にその旨を申し出、許可を取ること　合計実習時間数が80時間を満たない場合は、延長実習を行うこと
連絡先　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	Ⅰ.幼稚園における80時間(計10日間)の実習を通して観察・参加・指導実習(部分・全体)を体験する。 2.観察・参加を通しては、幼稚園での子どもの姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等、幼稚園教育のあり方について、体験を通した理解を課題とする。 3.参加・指導実習(部分・全体)を通しては、子どもの発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務と実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、子どもの援助・指導案の立案・教育実践の展開・実践の評価など、体験を通した実習となるようにする
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:教育実習指導Ⅰ	担当者:田端 智美・森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:教育実習入門を履修済みであること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教育実習Ⅰのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に生かしていく。

授業の到達目標
①幼稚園教区実習の意義や目標を理解する。　②実習への心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む。　③観察実習・参加実習・責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組み。　④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に生かしていく。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内で詳細を提示
１年次の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学習をすること。

評価方法
事前課題（ワークシート・指導案等）５０％、事後課題（事後課題発表等）５０％、授業への意欲１０％を総合的に評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
教育実習Ⅰハンドブック	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
公欠以外の理由で事後指導を欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合はその前後に必ず、教務課と授業担当教員に直接連絡をしてください。課題があります。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	教育実習Ⅰの課題と事前事後指導の計画の理解
02	幼稚園における教育・保育の理解
03	３・４・５歳児の発達過程における理解
04	教育実習における指導案の書き方
05	指導案の作成と発表
06	事前訪問のための学内指導・実習直前指導（教師としての心構え）
07	教育実習事後指導１（学びの振り返り）
08	教育実習事後指導２（自己課題の明確化）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:総合演習Ａ	担当者:髙橋 一郎・寺田 恭子・森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１　従来に引き続き、3年次以降の学術研究(卒業論文)につながる基礎を作る
２　ゼミ行事として「ゼミ交流遠足(前期早めに)」「日帰りゼミ研修旅行(後期)」を新たに実施する
３　グループ単位で子どもに関する「基礎研究レポート」を作成し､発表･提出する。
　　例：昔話、童謡、唱歌、美術関連
４　学年全体での行事も取り入れる（上記研修旅行も含めて月に1回の割合で実施）
５　先輩(4年生帰国後の後期のみ)、後輩（1年）との交流を学部運営委員を中心に行う。
６　記録的意味合いも含めて「ゼミノート」を全員作り、ゼミ教員に提出する。

授業の到達目標
「前向きな明るいコッコを作る～留学に向けて～」
ゼミ運営を通して、留学にワクワクして行く日を心待ちになるような雰囲気と団結を作る。従来の論文指導との割合を調整し、学修結果を明るく楽しくグループで作り上げる形で、学術プラス人間関係の構築の両方をバランスよく運営する。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
基礎研究レポートの調査。

評価方法
出席及び行事への積極的参加　　X　％
基礎研究レポート　Y ％
ゼミノート Z ％
詳細は授業の初回に説明します。 課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
課題図書及び課題文献については授業内で指示する。	授業内に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
今学に向けて前向きな気持ちで学びましょう
髙橋先生　takahashi@ohkagakuen-u.ac.jp
寺田先生　terada@ohkagakuen-u.ac.jp
森山先生　moriyamam@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス（前年度の例をのせておきますが、今年度の詳細は初回授業に説明します）
02	先行研究の調査方法（先行研究と文献収集について）
03	先行研究の調査方法（論文の精読とまとめ・分析について）
04	先行研究の調査方法（ハンドアウトの作成につて）
05	先行研究の調査方法（グループ内発表）
06	プレゼンテーションとディスカッション（研究手法と研究計画書の作成方法について）
07	プレゼンテーションとディスカッション（効果的なプレゼンテーションの方法について）
08	プレゼンテーションとディスカッション（研究テーマの設定・研究計画書の作成）
09	プレゼンテーションとディスカッション（研究計画書に基づく調査及び研究）
10	創造し、実践する（人形劇・作成の基本）
11	創造し、実践する（人形劇・作成と実践）
12	プレゼンテーション（ゼミ内発表）
13	プレゼンテーション（合同発表）
14	学科講演会
15	前期の振り返り / 夏季休業中の課題説明
16	なし

科目名:保育原理	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では高度で実践的な保育と子育ての専門家を目指して、保育の意義を学び、普遍的な子どもの原理・原則と今日の子どもを取り巻く環境に適した柔軟な保育のあり方について学んでいきます。授業の方法は、教科書を中心に基礎的な事項を読んで解説することと、ビデオや実例などをもとに保育の現状を伝えて行きます。授業毎に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をしてもらいます。また回収した課題（用紙）は翌週に押印もしくはコメントの上、返却します。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用します。

授業の到達目標
１　保育の意義について理解し、現代の保育の課題と目指すものを述べることができる。 ２　幼稚園・保育所、認定こども園に関する諸制度を理解し、意見を述べることができる。 ３　保育の歴史上の人物の実践と思想、保育の専門性について理解し、将来の保育者像を描くことができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読んでおいて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として教科書で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に授業の内容をまとめた用紙を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
はじめて学ぶ保育原理（斎藤裕・吉見昌弘編　北大路書房）	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	保育の意義と現代的課題
03	幼稚園における諸制度
04	幼稚園教育要領
05	保育所における諸制度
06	保育所保育指針
07	幼稚園と保育所の比較
08	幼保一元化の流れ
09	認定こども園
10	保育内容（５領域とねらい、内容）
11	保育形態　－自由保育、一斉保育
12	保育形態　－設定保育、統合保育
13	子どもと自然の関わり
14	保育の歴史と思想　保育者の専門性
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育原理	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育と学校の歴史・理念・思想についての知識を理解し、特性や問題点について展望できる思考力を獲得する(国際教養こども学科DP1、2)。　方法は、各回、ムードルに資料を掲載し、授業時に説明し、各自がその資料に書き込みをして学修を進める。それと共に、授業ノートをムードルへ提出する(7回)。映像を用いて説明し事例検討を行う。グループ・ディスカション(2回)。毎回、パソコンを持参すること。

授業の到達目標
　到達目標は、①家族・社会を含めた教育・学校の理念・目的・営みの歴史について知識を身に付けること、②近代の教育・学校の理念・目的・営みが、どのようなものとして出現し展開してきたのか、そこにおける特性や課題は何かについて展望する思考力を身に付けることにある。　(国際教養こども学科DP1、2)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　基本的に、次回の資料を開示するので、予習として読んでおくこと（事前学修）。授業後は、書き込んだ資料を読み直し、ポイントを振り返りながら、授業ノートを記載し後日提出すること(事後学修)。

評価方法
　事後学修として提出する授業ノート（50点）、学期末試験（50点）を合計して100点満点で評価する。授業ノートのフィードバックについては授業内で行う。

教科書	参考図書
毎回、資料と授業ノートをムードルに掲載する。	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「小学校学習指導要領」、その他については授業時に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参して下さい。
　オフィスアワー　木曜日　昼休み。　　メールアドレス　t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp

01	人間形成と学校教育
02	明治期以前の家族・学校・社会と人間形成
03	明治期の家族・学校・社会と教育①　近代教育制度の歴史・理論
04	明治期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園・保育所の歴史・思想
05	大正期の家族・学校・社会と教育①　新教育運動と日本型学校文化の歴史・思想
06	大正期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園の歴史・思想と教育家族
07	昭和期の家族・学校・社会と教育①　軍国主義下の教育の歴史・理論
08	昭和期の家族・学校・社会と教育②　戦後教育の歴史・理論
09	昭和期の家族・学校・社会と教育③　詰込み型教育の歴史・理論
10	昭和期の家族・学校・社会と教育④　ゆとり型教育への転換
11	平成期の家族・学校・社会と教育　　学力観の転換
12	欧米近代の家族・学校・社会と教育①　宗教改革と子ども観の転換
13	欧米近代の家族・学校・社会と教育②　家庭教育と学校教育の思想
14	欧米近代の家族・学校・社会と教育③　新教育運動の学校と思想
15	近代の学校と教育の特性と課題について
16	学期末試験

科目名:子ども家庭福祉	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、子ども家庭福祉に携わる保育者を目指すものとして必要な、子どもとその家族の幸せを保障することの必要性、そのための法律や制度等の知識を学ぶ。そして、子ども家庭福祉の現状と課題を実際の事例を交えながら学び、現場の保育者たちの考えや行動、地域における専門職の連携による子どもとその家族への支援について、グループディスカッションを取り入れながら学ぶ。【AL】

授業の到達目標
DP１に関連し、下記を到達目標とする。
１．現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解する。
２．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
３．子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を中心に授業を進めていくため、必ず、準備学修として該当単元の予習を行っておくこと(２～３時間)。事後学修としては、課題のプリントを完成させること(１時間)。

評価方法
ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、課題（40%）、授業態度（10%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「みらい×子どもの福祉ブックス　子ども家庭福祉」喜多一憲　監修・堀場純矢編　（株）みらい	授業で随時、紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション
02	現代社会と児童家庭福祉
03	子どもの人権
04	子ども家庭福祉の成立と展開
05	子ども家庭福祉の法体系、行財政
06	子ども家庭福祉の機関・施設
07	子育て支援・次世代育成支援と保育施策
08	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策
09	子ども虐待とDV問題の防止施策
10	虐待防止について考える（グループディスカッション）
11	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策
12	障害がある子どもへの福祉施策
13	心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援
14	子ども家庭福祉の専門職と連携
15	諸外国の動向
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:社会福祉	担当者:古畑 淳	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　わが国の社会福祉は近年、少子高齢社会の進展、家族形態の変容、都市化・過疎化など地域課題の発生、雇用や経済の格差が広がる中で、ますます重要性が増している。講義ではそのような社会福祉について、①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題の５つについて学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。なお、本科目は、「専門教育科目」のうちの「子ども教育科目」に位置づく科目である。

授業の到達目標
　①社会福祉の意義と歴史的変遷（DP）、②社会福祉の制度と実施体（DP））、③社会福祉における相談援助（DP）、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み（DP）、⑤社会福祉の動向と課題（DP）、について理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。

評価方法
　試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。
　【試験に対するフィードバックについて】
　授業アンケートのコメントフィードバック時に行う。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　社会福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	最近の社会保障、社会福祉の話題
02	社会保障、社会福祉の理念と概念
03	憲法が保障する生存の権利について
04	社会保障、社会福祉の歴史
05	社会福祉の理念の変化と社会福祉基礎構造改革
06	社会福祉の制度と法体系
07	社会福祉制度の実施体制
08	社会福祉の専門職と地域の協力者（民生委員制度）
09	社会福祉の相談援助
10	社会福祉の提供主体（社会福祉法人制度を含む）
11	社会福祉サービスの利用者と権利擁護
12	社会福祉の財政と利用者負担
13	生活保護制度の理解
14	高齢者福祉制度の理解
15	障害者福祉制度の理解
16	試験

科目名:保育者論	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、資格取得と目指そうとしている保育者の全体像を学ぶ。具体的には、役割と職務内容と必要な専門性を、具体的な映像や事例を、グループディスカッション等を取り入れながら学ぶ。そして保育者の専門性について、絵本を毎回２人に読んでもらうという実践の中からも学ぶ。【AL】

授業の到達目標
DP１に関連し、下記を東拓目標とする。
１．保育者の役割・制度的位置づけについて理解する。
２．保育者の職務内容を学ぶ中で、資質・専門性について理解する。
３．保育者が同僚・家族や地域と連携・協働していく必要性について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、該当箇所のテキスト及び資料を熟読しておくこと。また、絵本の順番にあたっている人は、必ず練習をしておくこと。（２～３時間）事後学修としては、課題プリントを完成させておくこと(１時間)。

評価方法
ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、課題（40%）、授業態度（10%）で総合的イン評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「アクティベート保育学02　保育者論」大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸編著　ミネルヴァ書房	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、保育者のイメージ・保育者になりたいと思った理由・保育者とは
02	保育者になるために：保育者の免許・資格
03	幼稚園教諭の仕事とその１日
04	保育士の仕事とその１日
05	保育者自身の体験と感性を育むこと
06	子どもの思いや育ちを理解する
07	子どもと一緒にこころとからだを動かす―あそびを援助すること
08	０・１・２歳児保育における保育者の役割
09	子どもが主体的に生きる保育の日々を保障する
10	個と集団を生かす
11	保護者・家庭・地域と“一緒に”育てる
12	多様な子どもの理解とその支援－様々な文化を尊重する
13	教材などを通して学びを深める－引き出しを増やしながら
14	学び合う保育者
15	保育者の専門性って？
16	定期試験

科目名:発達心理学	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
「人間は一生かけて発達していく」という生涯発達の視点に立ち、人生の基礎を築く乳幼児期を中心に、保育との関連で子どもの心理発達の特徴としくみについて学びます。乳幼児の映像や事例による学習を随時取り入れて、実践的な学びを深められるようにしていく。グローバルな視点から、多文化共生の中での子どもの発達と保育についても考えましょう。

授業の到達目標
１．子どもの発達に関する基礎的な知識を確実に身につけている（DP）。２．さまざまな機能領域での発達を理解し、それを統合して「一人の人間」として「人や物とかかわりながら発達していく子ども」の姿を具体的に思い描く（DP）ことができる。３．生涯発達の視点から保育の重要性を理解し、子どもの発達と保育の関係について考える（DP）ことができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Moodleを通して、準備学習、事後学習の課題を課します。
準備学修を通して、各回に自分なりの視点をもち授業に臨むことができ、理解が深まりますので、授業の前日までに実施しましょう。
事後学修では、各回の授業を学んだうえで、保育と照らし合わせて考えるような課題を課します。授業を振り返りまとめ自分なりに調べることで、さらに学びを深めていくことを期待します。

評価方法
定期試験（55%）、レポート・課題提出（45%）から、総合的に評価します。
レポート等課題のフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
「楽しく学べる乳幼児のこころと発達」櫻井茂男・大内晶子（編）福村出版	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
レポートについては次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や、学生の代表的なコメントなどを紹介します。オフィスアワーや連絡先は授業で開示します。

01	子どもの心理、発達の原理
02	胎生期の発達　命の芽吹きから誕生まで
03	からだと運動　からだの変化、脳・神経の発達と運動、運動機能の発達
04	乳児の研究　知覚を中心として赤ちゃん研究の面白さを知る
05	認知と思考　乳幼児期の認知発達、記憶の発達
06	感情　感情の発達、欲求と動機づけの発達
07	社会性の発達（1）愛着とは
08	社会性の発達（２）さまざまな人間関係
09	遊び　遊びの発達、遊びにおける大人の役割
10	自己　自己の認識、気質と個人差、日本における自己
11	向社会性と道徳性　向社会的行動の発達、道徳性の発達
12	幼児期の年齢の特徴と理解
13	多様性と保育ー多文化共生、障害等と子ども同士の育ち合いを考える
14	児童期・思春期の発達と理解
15	青年期・成人期・老年期の発達と理解
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:保育内容総論	担当者:伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】公立幼稚園勤務（40年：内11年園長）の経験を踏まえ、保育全般について具体的な実践例をまじえながら学んでいけるようにする。
３法を知り、幼児教育・保育の基本を学び、各年齢及び一人一人に応じた保育内容・指導計画、園と家庭や地域との連携、地域における子育て支援などについて理解する。また、保育内容の変遷、諸外国の保育内容についても学ぶ。さらに、少子化の進行、子どもの生活や遊びの変容による保育のニーズの高まりや今日的課題を考えた保育のあり方について、仲間と話し合い、発表・報告する。

授業の到達目標
○到達目標１　幼児教育・保育の基本を習得し、各年齢の発達・保育内容・保育の計画について理解する。【DP】
○到達目標２　一人一人の子どもの理解・遊び・環境・保育者の関わりについて、子どもの姿をイメージしながら考える。【DP】
○到達目標３　自分の考えを表したり他者の考えを聞いたりして、自ら学び仲間と一緒に学び合う。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を確認して授業に参加する。授業内容に関する項目を教科書を見て予習をする。
・授業内容を復習する。

評価方法
授業への参加・学習態度・学びの振り返り３０％、課題の提出３０％、筆記試験４０％にて評価する。
課題については、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案を紹介する。

教科書	参考図書
津金美智子・新井美保子編　新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』　（株）みらい	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・免許・資格を取る学生は、休まず履修する。
・ボランティア活動等への積極的参加をし、子どもとのかかわりをもつ。
・周りの環境（人・物・事・自然など）に関心をもち感性を磨くことに努める。
伊藤のアドレス　s-itou@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・授業の進め方・子育てを巡る動向と課題＜グループディスカッション＞
02	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容（社会環境の変化・保育内容の基準）
03	幼児教育・保育の基本（環境を通して行う保育、育みたい資質・能力、１０の姿の理解等）
04	遊びと保育内容（保育内容５領域の総合性）＜グループディスカッション＞
05	子ども理解①（乳児保育に関わる保育内容）
06	子ども理解②（１歳以上３歳未満児の保育内容）
07	子ども理解③（３歳以上児の保育内容）
08	子ども理解④（3歳以上児の保育内容）
09	子ども理解⑤（3歳以上児の保育内容）
10	家庭・地域との連携、健康及び安全、子育て支援
11	保育の計画①（教育課程・全体的な計画とカリキュラムマネジメント）
12	保育の計画②（指導計画と保育の展開、保育の記録と評価）
13	保育の計画③（記録の実際）
14	我が国における保育内容の変遷（戦前・戦後、現代の課題）
15	諸外国の保育内容＜演習＞世界の幼児教育・保育内容の調査発表　★授業全体まとめ
16	筆記試験

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法（環境）	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目では、“保育は環境を通して行われる”と言われる、保育にとって重要な領域“環境”のねらい及び内容を学ぶ。特に、多文化共生社会にいきる子どもたちに必要な環境について、どの様な視点が必要かを、事例等から学ぶ。また、実際に環境構成案を作成し、グループで発表・討論することで、領域”環境”についての実際について学ぶ。【AL】

授業の到達目標
DP１と４に関連し、下記を到達目標とする。
１．一人ひとりが生き生きと生活をする環境を考えるためには、異文化理解の視点が必要であることを理解する。
２．環境の視点から、乳幼児の生活や遊びについて、保育者が留意、配慮すべき事項を理解する。
３．乳幼児の発達過程に即し、子ども主体の保育場面を想定し、環境構成等できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業時までに、関連する教科書の箇所・資料を熟読する。時に、事前課題を出すこともある。（２～３時間）また、事後学修として、課題レポートを完成させておくこと（１時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、課題（40%）、授業への参加態度(10%)で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「新しい保育講座９　保育内容『環境』」久保健太・高橋景子・宮里暁美編著　ミネルヴァ書房	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、幼児と環境の学びから保育内容指導法「環境」へ
02	保育における「領域」の意義、「環境」のねらいと内容
03	一人ひとりを大切にする保育－領域環境の視点から
04	乳児保育における「環境」とのかかわり
05	モノとのかかわりを支える保育の展開
06	自然とのかかわりを支える保育の展開
07	社会とのかかわりを支える保育の展開
08	社会とのかかわりを支える保育の展開（イギリスのプレイグループの事例）
09	主体性を大切にした指導案とは
10	自然とのかかわりを支える保育の指導案の作成（グループディスカッション）
11	模擬保育
12	模擬保育の振り返り
13	領域「環境」と小学校教育のつながり
14	環境における現代的課題と保育
15	共に環境を創造する「創り手」としての子ども・保育者・保護者の育ち合い
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法（言葉）	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では、豊かな学びの共同体として、自主的、主体的に学び活動する力を養うために、保育内容指導法の言葉に関する専門的知識と技能を修得します。具体的には「言葉と児童文化財について、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや絵本の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　言葉と児童文化財について発達を促す援助と計画を理解できる
２　幼稚園教育要領、保育所保育指針では領域「言葉」をどのように捉えているか理解できる
３　言葉の発達を促す保育者の働きかけや援助について、絵本等を通して理解し、実践できる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読むこと。加えて授業開始時に絵本の読み聞かせを担当する学生は事前に読み聞かせの練習を重ねて下さい（授業毎に１時間）。事後学修としては、絵本ノートを活用して図書館などで絵本のあらすじや内容をまとめて下さい（約30時間）。さらに、絵本の制作においては、各授業の進度に合わせてグループごとに制作活動を自主的に進め下さい（約15時間）。

評価方法
　受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
保育内容（言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社　※前期の「幼児と言葉」と同一の教科書を使用します	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（水曜昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	言葉の発達を促す保育教材
02	ペープサートとパネルシアター
03	ペープサートの制作と実演
04	子どもの言葉の発達（誕生から1歳頃）
05	子どもの言葉の発達（1歳から2歳頃）
06	子どもの言葉の発達（2歳から6歳頃）
07	カルタの意義と制作
08	カルタの実演
09	保育内容の領域「言葉」
10	言葉と絵本（絵本の構造）
11	言葉と絵本（絵コンテ作り）
12	言葉と絵本（絵本下書き）
13	言葉と絵本（絵本制作）
14	言葉と絵本（実演
15	まとめと確認テスト
16	なし

科目名:幼児と環境	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 本科目では、保育においてその命と成長を保障すべき、乳幼児という存在にとって環境とは何かについて学ぶ。その重要な位置付けを具体的な環境と関わる子どもの姿から学ぶ。さらに、保育所保育指針や認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領に結び付けていく。映像を取り入れる。コミュニケーションシートを使っての質疑応答を行う。【AL】
授業の到達目標 DP１に関連し、下記を到達目標とする。 １．乳幼児が多種多様な環境との関係の中で育まれていることを理解する。 ２．乳幼児の育ちには、その環境との五感を通した関わりが大切であることを理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 毎回の授業時までに、関連する教科書・資料等を熟読するとともに、課題に取り組む（２～３時間）。事後学修では、課題レポートを完成させる（１時間）。
評価方法 ルーブリックの視点から、最終レポート（50%）、課題（40%）、授業への参加態度（10%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じで全体へも伝える。

教科書	参考図書
「新しい保育講座９　保育内容『環境』」久保健太・高橋景子・宮里暁美編著　ミネルヴァ書房	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション、春見つけ
02	乳幼児期に育む大切なこと：五感を通した体験と意欲・好奇心
03	子どもを取り巻く環境
04	身近な環境とのかかわりと感性の育ち
05	モノとのかかわりを通して生まれる育ち
06	自然とのかかわりを通して生まれる育ち
07	社会とのかかわりを通して生まれる育ち
08	保育所保育指針・幼稚園教育要領・保育要領をひもとこう、課題テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児と言葉	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、豊かな学びの共同体として、自主的、主体的に学び活動する力を養うために、次の学修内容を習得していく。幼児の言葉の発達について、発達段階を追いながら具体的な事例を踏まえて理解を深める。幼稚園教育要領における領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。言葉の発達を促す絵本や紙芝居などの児童文化財等の種類と使い方について理解していく。授業の方法は、授業中に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をする。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用する。

授業の到達目標
1　幼児の発達特性を踏まえ、幼児の言葉の発達を理解できる。
2　幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、援助ができる。（DP）
3　言葉の発達を促す絵本や紙芝居などの児童文化を理解し適切に利用することができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ内容（参考資料等を含む）をよく調べて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として授業で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後の方で初回の授業で指定した課題を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出に加えて、予習復習の学修状況を40%、授業の初回に指定した課題を20%、最後のまとめにおける確認テスト40%として総合的に評価する。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
保育内容（言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社　※後期の「保育内容指導法（言葉）」と同一の教科書を使用します。	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	授業全体の流れの説明及び幼稚園教育要領について
02	言葉とは何か
03	言葉の働き
04	言葉と児童文化
05	絵本の選び方
06	紙芝居とは
07	紙芝居の演じ方と制作
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児音楽Ａ	担当者:石山 英明・古賀 弘之・玉護 眞理子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する基礎技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。それにより、より望ましい保育のあり方について考察し身につける（DP)。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるようになる。また、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル60番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、楽典の範囲は音階の理解までとする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において教員が個々の演奏を評価する。課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、歌のカレンダー（エー・ティー・エヌ）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	クラス分け／レッスン1
02	レッスン 2／楽譜の意味、音名と階名、音符ドリル、ソルフェージュ
03	レッスン 3／音の幅、弾き歌い、音符の長さ
04	レッスン 4／リズムと拍子、音符ドリル、ソルフェージュ、小テスト
05	レッスン 5／音符ドリル、弾き歌い
06	レッスン 6／調号、さまざまな記号、弾き歌い
07	実技試験／楽語、楽典の復習、ソルフェージュ
08	実技試験の振り返り／楽典試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児音楽Ｂ	担当者:石山 英明・古賀 弘之・玉護 眞理子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。それにより、より望ましい保育のあり方について考察し身につける（DP)。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるようになる。そして、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル88番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、音階と音程の理解までとする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において複数の教員が個々の演奏を評価する。課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、歌のカレンダー（エー・ティー・エヌ）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス／レッスン1（レベルチェックと各自の課題提示）
02	レッスン 2／音程の種類、音程の判定方法、ソルフェージュ
03	レッスン 3／長短系音程、完全系音程、派生音を含む音程、音程ドリル
04	レッスン 4／音程のまとめ、弾き歌い、確認テスト 弾き歌い
05	レッスン 5／音階と調号、身体表現と音楽（導入）
06	レッスン６／写譜、身体表現と音楽（応用） レッスン 6／音程（派生音）、ソルフェージュ
07	実技試験／楽典（後期）の復習
08	実技試験の振り返り／楽典試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:幼児造形Ａ	担当者:田端 智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。

保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を身につける（DP）
（1）保育実践に必要な表現力を身につける
保育実践に必要な造形の発想・構想の力・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力・保育実践に必要な造形表現の方法について伝える力
（2）保育実践に関する知識についての理解
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴・保育実践に必要な造形の用具の基本的・基礎的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成を理解する

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ・ポップアップカード等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40％）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40％）。振り返り等（20%)フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（描画について）
02	平面演習１（ドリッピング・バチックなど）
03	平面演習２（マーブリング・染紙など）
04	平面演習３（スタンピングなど）
05	平面演習４　（紙版画）
06	ポップアップカードの制作１(とび出す仕組みについて)
07	ポップアップカードの制作２・提出
08	活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）（AL）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児造形Ｂ	担当者:田端 智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:幼児造形Aを履修済みであること 幼児造形Aを履修済みであること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。
保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現と小学校低学年の図画工作等の学習活動を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して応用的に身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を応用的に身につける。（DP）
（1）保育実践に必要な応用的な表現力
保育実践に必要な造形の発想・構想の力を身に付ける・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力を身に付ける・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力を身に付ける・保育実践に必要な発展的な造形表現の方法について伝える力を身に付ける
（2）保育実践に関する知識
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴について理解・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴について理解・保育実践に必要な造形の用具の応用的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成について理解
【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40％）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40％）。振り返り等（20%)フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（工作について）
02	立体演習１（空き箱を使った工作について）
03	立体演習２（牛乳パックを使った工作について）
04	立体演習３（紙皿・紙コップを使った工作について）
05	立体演習４　（造形あそびについて）
06	製作活動を通した模擬保育１(素材を組み合わせた表現について)
07	製作活動を通した模擬保育２(粘土遊びについて)
08	活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）（AL）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:幼児体育Ａ	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　幼児の身体および運動能力の発育・発達について理解するとともに、幼児体育の意義やねらいを明らかにする。その上で、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解・修得し、保育者として実践力を身につける。本演習を通して、自らも運動遊びを楽しみかつ創造できる力を取得する（AL)。幼児が実施している様々な運動遊びを自ら経験することによって、幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びを提供したり、運動動作の習得に対する適切な援助・指導ができるように実践的に学んで行く。そのためグループ学習やプレゼンテーションを取り入れる。（A L)

授業の到達目標
①様々な運動遊びを経験し、上達を目指して主体的に取り組む中で、運動の楽しさを知り運動技能の向上を図る。（D P)
②幼児期の運動発達過程を理解する。（D P)
③工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる。（D P)
④運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。（D P）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容を提出用の授業ノートへ清書して下さい。

評価方法
1. 受講態度（50%）　2. B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめ学期末に提出（50%）学生へのフィードバックはリアクションペーパーを使用します。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱	授業の中で指示をする

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は申し出て下さい。連絡はメールかラインで取ります。

01	幼児体育の理念および授業計画について
02	幼児体操、からだを動かす歌遊び
03	新聞を使った遊び
04	基本の鬼遊びおよび仲間を助ける鬼遊び
05	身体表現運動（様々な模倣からカラダを感じる）
06	遊びの創作と発表
07	水遊び　水に慣れる(親しむ)運動遊び
08	授業のまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:幼児体育Ｂ	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
体育Aから継続して、乳幼児の身体や運動能力の発育・発達についての理解や課題の把握に努めながら、体育の意義やねらい、内容・方法についての理解と習得をはかって保育者として実践力を高める。各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、体育の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。 特に、各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、「幼児体育」の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。

授業の到達目標
①様々な運動遊びを経験し上達を目指して取り組む中で、運動の楽しさを知り運動技能の向上を図る。 ②幼児期の運動発達過程を理解する。 ③運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。④工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる「（DP）」。

【到達目標と深く関連する学科DP】

○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容を提出用の授業ノートへ清書して下さい。伝承遊びである竹馬、けん玉、フラフープ、お手玉、ひも独楽などの見本を子どもの前で見せることが出来るようになって下さい。

評価方法
1．受講態度（30%）　2．B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめ学期末に提出（50%）　3．基礎的技能の習得状況（20%）学生へのフィードバックは授業最後のリアクションペーパーを使用する。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱	授業の中で指示をする

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は、申し出て下さい。連絡はメールかラインで取れるようにします。

01	サーキット遊び　平均台、巧技台、跳び箱、マットなどの使い方を学ぶ
02	サーキット遊び　運動遊具を組み合わせた遊び方を考える
03	椅子を使った遊び
04	運動会の親子競技の指導
05	縄を使った運動遊び
06	ボール遊び
07	鉄棒、マット、跳び箱の実践と支援方法
08	伝承遊び　竹馬、けん玉、フラフープ、お手玉、ひも独楽
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:多文化共生研究	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
世の中、社会は様々な人々、文化、慣習、伝統などで成り立っています。そしてそうしたそれぞれの文化を背負った者が一緒になるとき、そこには文化摩擦、時には争いも生じます。受け入れられないことは争ってでも阻止するのか、あるいは共に生きていくため妥協・合意して折り合いをつけていくのかーーー私たちはそういった場面で決断を求められることもあります。国際教養こども学科1年前期の科目として、幅広い視野と社会に対する多角的な視点を国際・国内両方の事象から考えます。

授業の到達目標
この授業は【覚える】【暗記する】より【考える】授業です。それはこれからどう生きていくか、一人の人間として人生計画を組み立てて進んでいくか、などを多文化共生の観点から考えます。留学を控える学科として、海外で学びに行く意義付けと習得すべき者は何かを考えます。【DP】なお、下記授業計画の順番が替わる場合があります。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
社会に対する観察力を付ける人間に対するコミュニケーション力を付ける事象に対する分析力を付ける

評価方法
授業内の発言・発信30%　授業内レポート30%　期末考査40%　課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領　(詳しくは授業第1回目に話します)	図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

01	ウサギとカメ
02	ステレオタイプ「A子はうざいよ」
03	わっしょい、わっしょい
04	黒い未亡人
05	猿回しとイルカショー
06	過去・現在・未来
07	トーキー
08	太陽は味方か敵か？月は？
09	クイズと発表
10	命
11	遊ばない保育!?
12	日本
13	天災は忘れた頃やってくる
14	国際結婚
15	ケーススタディー
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:地域研究Ⅱ	担当者:太田　昌孝	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は大学のディプロマポリシーに謳う「幅広い知識」と「豊かな人間性」に直結する科目として位置づけられています。広く世界に目を向けるグローバル人材になることを目標として、日本の文化や歴史等に関する基本的な事柄を簡潔かつ丁寧に説明する練習を積みます。その際グループ学習やグループ発表などアクティブ・ラーニングを行います。

授業の到達目標
（１）「日本の文化や社会、歴史、文学等に関する基本的な事柄」に広く興味を持って研究し、自分の考えをまとめられる。(DP)
（２）上記でまとめた自分の考えを、正しい日本語で人が分かるように、明快かつ具体的に説明できるようになる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で習ったことをヒントとして、授業外では日本の文化や歴史についてさらに研究を深めます。また、それを日本語で簡潔にまとめます。さらにまとめたものを発表する練習をします。２単位の科目なので１回の授業に対して必ず予習、復習をして下さい。✡京都へのフィールドワークを予定しています。

評価方法
プレゼンテーション30%、レポート70%。プレゼンテーション、レポート共に講義内容の反映度、及び正しい日本語表現が用いられているかを基準とする。レポートに関しては評価を付けて返却する。

教科書	参考図書
自作テキスト配布予定	『古事記物語』（鈴木三重吉）『遠野物語』（柳田国男）『シュールレアリスム宣言』（アンドレ・ブルトン）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示します。質問はオフィスアワーを活用して下さい。

01	オリエンテーション・地域研究から日本文化理解へ。（講義の基本方針について学びます）
02	古代史を訪ねて①（邪馬台国に関する資料をもとに、大和政権成立までの経緯をたどります）
03	古代史を訪ねて②（『古事記』の「国作り神話」をもとに、古代王朝の背景を学びます）
04	古代史を訪ねて③（犬山市の「東之宮古墳」の資料をもとに、古墳時代について学びます）
05	天皇制と日本（天皇制の歴史を辿り、日本における天皇制の意味について学びます）
06	京都探訪①（平安遷都に関する資料をもとに、平安京の成立について学びます）
07	京都探訪②（「百人一首」をテキストに、藤原定家と冷泉家について学びます）
08	京都探訪③（京都御所に関する資料をもとに、平安京の特徴について学びます）
09	京都探訪④（現代の京都に残る、平安京の遺構を紹介しながら京都の魅力について学びます）
10	日本人はどこから来たのか①（柳田国男『海上の道』をもとに日本人のルーツについて学びます）
11	日本人はどこから来たのか②（沖縄をキーワードにして日本人の精神基層について学びます）
12	近代化と日本（柳田国男『遠野物語』をもとに日本の伝説の背景について学びます）
13	日本のヨーロッパ受容①（日本における洋画の変遷を辿り、ヨーロッパ受容について学びます）
14	日本のヨーロッパ受容②（日本におけるシュールレアリスム受容について学びます）
15	総まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:チームビルディング実践	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　海外研修及び留学では、個々人で乗り切ることが難しい課題に直面することも多い。本講義では、チームで取り組むことの意味や意義を理解し、協力して課題に取り組み、課題解決及びより良いものを創り上げていくための理論と実践について学ぶ。また個々人の力がチーム内で発揮できるよう個々の思考力や行動力にも着目しつつ、具体的には海外研修及び留学を想定した内容を軸としてワークを行い（AL)、チーム力の重要性とその力を向上させることの意味と意義を理解しながら必要な態度を見につける。

授業の到達目標
　①チームで働く力を身につけ、国際社会において保育者として活躍することができる能力を持つ（DP)　②保育・幼児教育に関する基礎的知識を基盤としつつ、諸外国のあり方への理解を深め、そこから自分の考えを持ち、チーム力をに支えられた保育・幼児教育のあり方を考えることができる（DP)。③多文化共生社会におけるチームでの保育・幼児教育の重要性を意識し、考え行動することができる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
与えられたテーマに対して発言できるよう準備をしてくることを準備学修とする。また授業で学んだ内容をフィードバックし、現在の自分に足りない力を客観的に把握すること、さらにその力の習得に必要な方法を自ら考え実践することが事後学修に相当する。

評価方法
受講態度（20点）、実践研究のグループ発表（20点×3回＝60点）、確認レポート20点　合計100点満点で評価する。フィードバックは授業最後のリアクションペーパーを使用します。

教科書	参考図書
特になし。その都度プリントを配布。	その都度提示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
チームビルディング用のファイルまたはノートを用意すること（A4サイズ）連絡を取りたい場合は寺田恭子研究室（管理棟2-4）まで。授業の前後でもOKです。

01	チームビルディングとは何か
02	海外留学で必要となる、チームで課題に取り組む力について
03	自己の成長　他者の成長（自己分析・他己分析）自己期待と他者期待
04	チームの課題達成のプロセスにおける重要ポイント・リーダーシップとフォロワーシップ
05	実践研究①　こんな時どうする？　ホストファミリーとのトラブルを解決するために
06	実践研究①　　様々な事例を通して課題克服リストを考える
07	実践研究①　アクティブラーニング　グループ発表　フィードバック
08	実践研究②　海外の幼稚園等における遊びの探求・遊び及び支援方法のディスカッション
09	実践研究②　グループワーク
10	実践研究②　発表・批評・フィードバック
11	実践研究③　日本を知ってもらうために・ワークショップ開催に向けて
12	実践研究③　　グループワーク
13	実践研究③　　ワークショプの実践練習
14	実践研究③　発表・批評・フィードバック
15	実践研究を通して個々人の課題を考える
16	チームビルディングのまとめ　チームビルディング力の客観的評価と今後の課題

2022年度シラバス

科目名:Basic Communication in English I	担当者:Indu Juneja・Lauren Landsberry・Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversation in English with a helpful native speaker.【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 2, Macmillan	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

01	Course Introduction: Getting to know each other
02	Unit 1 - Lifestyles part 1: Listening & Speaking
03	Unit 1 - Lifestyles part 2: Skills Expansion
04	Unit 2 - Leisure part 1: Listening & Speaking
05	Unit 2 - Leisure part 2: Skills Expansion
06	Unit 3 - Getting Along part 1: Listening & Speaking
07	Unit 3 - Getting Along part 2: Skills Expansion
08	Unit 4 - Interests part 1: Listening & Speaking
09	Unit 4 - Interests part 2: Skills Expansion
10	Unit 5 - Telling a Story part 1: Listening & Speaking
11	Unit 5 - Telling a Story part 2: Skills Expansion
12	Unit 6 - Celebrations part 1: Listening & Speaking
13	Unit 6 - Celebrations part 2: Skills Expansion
14	Course Revision
15	Final Assessment
16	No test

2022年度シラバス

科目名:Basic Communication in English II	担当者:Indu Juneja・Lauren Landsberry・Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversation in English with a helpful native speaker.【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 2, Macmillan	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

01	Course Introduction: Getting to know each other
02	Unit 7 - Food & Drink part 1: Listening & Speaking
03	Unit 7 - Food & Drink part 2: Skills Expansion
04	Unit 8 - Rules part 1: Listening & Speaking
05	Unit 8 - Rules part 2: Skills Expansion
06	Unit 9 - Adventures part 1: Listening & Speaking
07	Unit 9 - Adventures part 2: Skills Expansion
08	Unit 10 - Health part 1: Listening & Speaking
09	Unit 10 - Health part 2: Skills Expansion
10	Unit 11 - Comparisons part 1: Listening & Speaking
11	Unit 11 - Comparisons part 2: Skills Expansion
12	Unit 12 - The Modern World part 1: Listening & Speaking
13	Unit 12 - The Modern World part 2: Skills Expansion
14	Course Revision
15	Final Assessment
16	No test

科目名:教育実習入門	担当者:寺田 恭子森山 雅子・石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:なし		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園の教育の実際を体験的に学修し、目標を達成する。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能についての理解　②就園している子どもについての理解　③観察・参加・部分実習・指導実習を通して教育の実際についての理解　④教諭の職務内容についての理解　⑤家庭・地域との関係についての理解
(DP)
【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習のための体調管理を十分に行うこと。絵本の読み聞かせ、手遊び等の事前準備をしておくこと。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%　実習事後レポート10%、その他(実習への意欲・実習状況・実習巡回指導報告書など)10%を総合して評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書 教育実習入門手引き・ハンドブック	参考図書 幼稚園教育要領及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教育実習入門手引き・ハンドブック

01 1週間の教育実習入門実習を対象に、その事前、事後における指導を通して実習における学習課題の効果的な達成と、部分的とはいえ社会公共的な活動への参加にあたっての留意事項等の確認等を課題とする。
本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習入門指導」を履修することが条件となる。
（未履修者は本実習に参加することはできない）
遅刻・早退・欠席等については、必ず申し出ること。　連絡手段　事務局実習担当

2022年度シラバス

科目名:海外保育フィールド・スタディ	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
海外の保育現場に実際に入り実習を行う。日本との違い、共通点など、様々な視点で異国における保育現場を観察する。ニュージーランド・ハミルトン市街の保育園を中心に実習を行う。

授業の到達目標
①日本の保育と外見上の違いのみならず、保育に対するコンセプトの違いも学ぶ。何がどう違うのか。どのような考えに基づいて保育が行われているのか、などを自分なりに発見する。【DP】②可能な範囲で英語でコミュニケーションを取るようにする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
◎保育のあり方について考察する力
○課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で指示します。

評価方法
①事前指導クラスの評価10%　②現地実習の評価80%　③事後研修10%　それぞれの出席及び活動を総合的に評価します。
課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書 『保育の場で子どもの学びをアセスメントする―「学びの物語」アプローチの理論と実践』マーガレット・カー　2013年

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

01	①事前指導 授業で渡航地の文化、実状などを学ぶなどの事前学習を行う ②現地実習 現地で保育園に入り実習を行う。最後には子どもの前で出し物を出す ③現地文化 全員ホームステイで生活をする。保育のみでなくその国の文化を経験する ④現地学習 現地の高等教育機関(大学) を訪ね、講義を受ける ⑤現地視察 障がい児施設、先住民専用の園、など訪問し見聞を広げる ⑥事後研修 2週間の滞在を終えての反省会
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:海外幼児教育インターンシップ	担当者:内田 政一・加藤 あや美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
海外（主にニュージーランド）における保育・幼児教育の分野でのインターンシップを通して、国際的な視野を持った教育者・保育者としての素地を養います。また、現地での研修に参加することにより、実践的な英語を学びつつ、様々な人や文化と接触し、異文化理解を深める機会とします。授業は、事前指導と現地での語学研修・実習、及び事後指導で構成されています。渡航期間は2月下旬から3月中旬までの3週間程度の予定です。【AL】【EN】

授業の到達目標
研修先であるニュージーランドを中心とする海外の保育・幼児教育事情を知る。また、現地での研修により、異文化に直接触れ、異なる他者への理解を深める。（DP）加えて、日常的な英会話を身につけ、英語を使って現地のこどもや実習園のスタッフ、さらにはホストファミリーと簡単なコミュニケーションをすることを目指す。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
◎保育のあり方について考察する力
○課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ニュージーランドで研修を行うことを踏まえ、その準備段階に当たる事前授業への出席は必須とします。また、事前授業では、コミュニケーションに特化した英語を学んでいきますが、授業以外においてもListening,・Speakingを中心とした英語の学習を怠らないようにしましょう。

評価方法
授業への参加度　30%　現地実習評価　40%　実習記録作成　30%
現地実習終了後に実習記録返却および授業、現地実習に対するフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
海外への渡航を伴う科目であるため、事前に説明会を開催します。受講を希望する学生は、原則として説明会への参加が必須条件となるため、必ず参加するようにして下さい。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	事前授業では、プログラム内容の詳細な説明や旅行業者による渡航に関わる提出書類等についての説明を丁寧に行っていきます。また、現地でのコミュニケーションに必要な実践的な英会話のトレーニングにも取り組みます。さらに、昨年度参加者によるプレゼンテーションの機会を設け、海外渡航への不安解消に繋げていく予定をしています。 研修実習国はニュージーランドで、滞在先はホームステイを予定しています。また、参加費用は40~50万円後半までの設定となる見込みです（参加人数等により変動します）。1週目は語学及び文化研修を主とし、2、3週目は現地の保育施設にて実習に参加していきます。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	